

Title	天理大学附属天理図書館蔵『老子道德経河上公解〔抄〕』翻印並に解題(上)
Sub Title	
Author	山城, 喜憲(Yamashiro, Yoshiharu)
Publisher	慶應義塾大学附属研究所斯道文庫
Publication year	1994
Jtitle	斯道文庫論集 (Bulletin of the Shidô Bunko Institute). No.29 (1994.) ,p.349- 437
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	資料紹介
Genre	Departmental Bulletin Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00106199-00000029-0349

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

天理大学附属 天理図書館蔵 『老子道德経河上公解〔抄〕』

翻印並に解題（上）

山城喜憲

前言

本稿を公表するに当たり、先ず、本書の翻印並びに本誌掲載を快く御許可下さった、天理図書館の御配慮に対して深謝申し上げる。尚、同館目録による本資料名は「道德経抄」、平成六年二月八日付けで許可指定された翻刻番号は、「天理図書館本翻刻第七一二号」である。

本書に初めて接したのは、平成元年三月の初めのことである。斯道文庫事業計画の主要案件「漢籍総目録編纂のための書誌調査並びに研究」の部門別テーマとして継続中であった「老子諸

本の書誌調査」の進行上、天理図書館への訪書行が懸案となっていた。三月とはいえ、未だ残冬の余冷の身に沁みる、数日間の逗留だったと記憶する。同図書館の蔵書目録及び『国書総目録』に基づいて、事前に作成した所蔵道家類の図書名リストにはこの書は無く、当日、備付けのカード目録を検索して閲覧申請した貴重書の一つで、予期せぬ眼福を得て嬉しい成果であった。

一見して、河上公章句本を底本とした邦人撰述の注釈書で、江戸時代中期には下らない古写本であることは察知出来たが、「義曰」「疏曰」の引用が頻出する注釈内容については類書を聞

かず、調査カードを取るのに焦慮したことも記憶に新しい。取り敢えずは全巻の複写を申請して、後日の検討を期すこととした。

本書の資料としての性格内容についての詳細は後の解題にゆずり、ここではその概略を記しておきたい。

本書は、老子道德經の經文及び河上公注文の全文を、經文字句段節に従い分割掲出し（但し、同本は、後半の德經部分を欠いている）、その經注文に就いて注釈を施した邦人の撰述書で、江戸時代初期の成立図書と推定される。全文掲出された經注文は、王朝以来近世初にわたって主流であった古鈔本、古活字版の本文に極めて近い、と言うより寧ろ同一本と見做してよく、老子テキストの伝流と遷移を考察する上でも、看過できない重要資料と認められる。また、江戸時代初期の老子学の水準と動向に就いては、窺測しうる伝存図書資料は非常に乏しく、本書の存在はそれを端的具体的に示す一事象として注目を要しよう。

更に、古書の引照が豊富であり、且つ引用に際しての字句の省略は殆ど無い。従って、引用諸書の流伝の情況或いは伝本系統を推察検討する上で、参考すべき点が極めて多いと信じる。

その中には当時本邦未刊の書が多く、江戸前期以後明版の翻刻覆刻が盛んに行われるが、それ以前に於ける明版受容の一斑を伺うことも可能であろう。因みに「義曰」「疏曰」の標識は、唐の杜光庭撰「道德經廣聖義」からの引用を示すもので、同書は本邦においては未だ刊行されたことが無く、舶載されたはずの宋元版、或いは明版の伝存本も未だ知られていない。且つ、本書引載本は現在通行の道藏本とはテキストを異にしている。

以上の認識を得たことが、学界未紹介の写本であることとともに、此処に敢えて翻印公表する所以である。

送付されてきた写真をもとに、漸漸と翻字の作業を試み、昨夏ようように素稿を成し、此の三月再度天理へ赴き原本との対校を終えた。錯誤、尚、少なからずと恐れている。大方の教示叱正を切望する次第である。

閲覧、調査、複写等諸般にわたって、種々に御高配便宜を賜った金子和正先生をはじめ、天理図書館の関係者各位に対しては、重ね重ね深謝申し上げる。

平成六年仲夏識す。

凡例

一、本翻印の底本は、天理大
学附属天理図書館所蔵の左記の古鈔本である。

老子道德經河上公解〔抄〕（存道經三十七章並附） 旧題

漢河上公章句 闕名者注 寛永四（一六一八）写

和大合二冊（請求番号一六・一〇一イ九）

（尚、所蔵者のカード目録の標目は「道德經抄」）

一、書誌事項の詳細は解題で述べるが、繙読に必要と思われる梗概のみを記しておく。

後補茶色空押し巾繋ぎ花卉文表紙（二七・二×二〇・〇

糲）、元表紙は本文共紙。もと六冊を二冊に合綴、第二、

三、五、六冊の元表紙は欠落。兩冊共に首に副葉紙一葉有り。

無辺無界、字面高さ約二二・三糲、每半葉十三乃至十七

行、章題及び経文は大字を以て掲出、注文は低一格、每行

廿三字内外不等。「僕按」等の按語は二格下げの箇所もあり、

また、小字注、小字双行注も混在する。柱題署無し。

墨筆の返り点、送り仮名、音訓合符連続符を付す。朱筆

の句点、圏点、合点及び朱引が施され、経文頭には「〇」河上公章句の一部に「△」の朱標識を冠し、章句全文、或いは注解に引用された経文章句の字句の左旁には朱の傍線が附されている。

一、底本の忠実なる復元を期し、本文の譌字・脱字・衍文はもとより、訓点・振仮名の誤りと雖も、底本通りそのままに翻字し、「校記」にその旨注記して、私意に懸かる訂正は原則として加えていない。

一、本書の行間・眉上等余白には補訂の加筆が所々に存する。底本の加筆、削除の箇所は其の訂正するところに従い、「校記」に於いて、原状を注記した。

一、*符を付した字句は、「校記」に注記のある字句であることを示す。

一、朱の句点・合点の加筆は、本文書写後程なく、書写者若しくはその近縁者が加点したものとみて支障無いであろう。従って、当時の句読法を伝えるものとして無視できない。依って読解の便宜をも考慮し、底本の加朱のままに、句点・合点を施した。章句左傍の傍線、経文章句頭の○△の符標も同様に扱う。

一、行字数は、底本の通りではないが、段落改行、空行の箇所は可能な限りそれに従った。改頁の箇所には私に「」符を付し、下方欄外に底本の丁次数を示した。

一、◇は、虫損箇所を示す。

一、■は、底本塗抹抹消の箇所である。抹消前の字句が判読出来る場合は、「校記」に記す。

一、印刷技術上の制約により、次の如き更改を余儀無くされた。

1、行字数は、底本のそれを無視した。

2、地名・人名・書名等に附された朱引及び圈点は、全て省略する。

3、底本の異体字（略字・別体・俗字・くずし字等）は、支障の無い限り原則として通行の字体に改める。

(表紙)

道德經抄上

(元表紙)*

寛永四年八月十一日

老子道經

河上公解
自一至五*

(副葉紙一葉)

老_一子道_一經上 廣_一聖_一義_一曰、書_ノ之_レ分_テ卷_ヲ以_テ為_ニ上_一下_一、惣_ニ其_ノ名_一曰_ニ道_一德_一經_一者、王_カ弼_ナ所_レ傳_ル也、奮_ル意_ニ此_ノ之_レ惣_一名_一所_ニ從_ル來_ス者_古也、凡_今本_ニ分_テ標_ス道_一經_一德_一經_一者、則_恐後_ハ人_為之_ヲ、蓋_上卷_亦自_言治_言兵_ヲ、下_一卷_方且_論一_論道_論無_論柔_ヲ、自_足以_見道_一德_一之_レ不_レ可_レ分_レ二_也、

僕_謂然_也、雖_然代_ニ其_人一_言、名_曰道_一德_一經_一者、不_下以_道德_一分_レ之_ヲ、唯_假道_一德_一之_二字_一分_ニ上_下一_而

已

林希逸口義序曰、唐元宗改定章句、以上篇言道、下篇言德、尤非也。又上陽子道德經序曰、唐賜號曰道德經。

僕以廣聖義考之、二說未審

道德 會上声皓勻、道、杜皓切、說文所行道也、徐曰、人所踏也、

入声職勻、德的則切、朱氏曰、躬行有得之謂德

張洪陽注老子經、自序曰、自然為道、得道為德、又云自無生有道也、從有反無德也

經 會平青勻、經、堅靈切、一曰書也、積名、徑也、典常也、言如徑路無所不通常用也、孝經注疏云、經者、常行之典

河上公章句 袁林廣記老子變現之圖曰、文帝時河上公

廣聖義曰、太極葛玄仙公道道德經序訣云、河上公者莫知其姓名也、漢孝文帝時、結草為庵于

河之濱、常讀老子道德經、即今陝州黃河之側有河上公廟、路左有漢文帝望仙臺存焉、時人不

知公之姓名、常見庶履為業居於河上、故號河上公尔

史記樂毅列傳第二十、太史公曰樂臣公學黃帝老子、其本師號曰河上丈人、不知其所出、河

上文人教安期生、々々々教毛翁公、々々々教樂瑕公、々々々教樂臣公、々々々教蓋公、注索隱曰、蓋音、古闔反、蓋公教於齊高密膠西、為曹相國師、

一ウ

僕考高密膠西者、齊悼惠王子漢高祖孫也、膠西王卬都密州高密縣、故曰高密膠西、史記世家曰、齊悼惠王劉肥者、高祖長庶男也、其母外婦也、曰曹氏、
為曹相國師、史記世家曰、平陽侯曹參者沛人也、注曹參字敬伯、又曰、孝惠帝元年除諸侯相國法、更以參為齊丞相、參之相齊、々々々城、天下初定、悼惠王富於春秋、參尽召長老諸生、問所以安集百姓、如齊故俗、諸儒以百數、言人々殊、參未知所定、聞膠西有蓋公善治、黃老言、使人厚幣請之、既見蓋公、々々々為言治道貴清淨而民自定、推此類具言之、參於是避正堂、舍蓋公焉、其治要用黃老術、故相齊九年、齊國安集、大稱賢相、

章句 廣聖義曰、章者、裁斷音句也、句者、言之所絕也

論語古注序曰、包氏周氏章句出焉、疏章句者、訓解科段之名

2オ

廣聖義曰、詔唐玄宗撮其指歸、雖蜀嚴猶病、義曰、撮者、採結之謂、指者、趣向也、歸者、義理會聚也、蜀嚴者、仙人嚴君平居於蜀肆、作道德指歸一十四卷、恢廓浩汗、為時所稱、聖旨以為道德之說、文止五千、指歸之多、將及數萬、演之於世、謂為富贍廣博、詣之理、傷蔓衍繁、故云雖蜀嚴猶病也、詔摘章句、自河公而或畧、義曰、摘者、採擷分判也、章者、裁斷音句也、句者言之所絕也、自從也、河公河上公也、聖旨以為道德尊經、并苞方法、圍制三才、理國理

家之宗、修身修道之要、無所不攝、無所不周、而河上公分為八十一章、局九九之數、有失大聖無為廣大之趣、故云自河公而或畧、詔其餘浸微固不足數、義曰、其餘者、言自蜀嚴河公之外五十餘家註義也、浸、遠也、微、細也、數、計也、嚴雖猶病、可以議於重玄、河雖或畧亦足明其至妙、自外諸家浸遠微細不足比方、固非聖旨之所計數也

2ウ

道書全集上陽子道德經序曰、古今解註何啻百一人、惟河上公所釋、以授漢文帝者、語淺意深、今難得其真本、經中大意第一一章顯而出之、了具眼者於此早分利鈍

體道第一 上陽子道德經序曰、真人鄭思遠標註八十一章之目、纂圖互註同之、諸解畧號道可

道章

第一 會去霽、廣韻、次第也、漢書注孟康曰、有甲乙次第故曰第也

一 入質 廣韻數之始也

(三行余白)

3オ

(半葉余白)

3ウ

○道可道

道書全集道德經上陽子註曰、夫道也者、位天地育萬物曰道、揭日月生五行曰道、多

於洹河沙數曰道、洹河者、西方界、此河四十里、細如麵、此數之多者也、孤則獨無一侶曰道、直入鴻濛而還、溟滓曰道、善集造化而頓超聖凡曰道、目下機境未兆而突爾靈通曰道、眼前生殺分明而無能逃避曰道、處卑汚而大尊貴曰道、居幽暗而極高明曰道、是道也有大識見之眼而無睛、有大智惠之耳而無聞、有吸西江之口而無齒、有諳妙香之鼻而不臭、有殺活舌頭而味不味、有金剛法身而在自在、有生死劍而武士不敢施用、有一字義而文人不能形容、雖黑漫々不許一眨、闐然而日彰、任峭巍々壁立万仞、放身而無怖、細入刹塵曰道、大包天地曰道、將無入有曰道、作佛成仙、是道、佛經五千四十八卷也、說不到了一處、中庸三十三章也、說不到窮處、道德五千餘言也、說不到極處、道也者果何謂也、一言以定之曰氣也、故鄭真人曰、道乃氣之用、當知下體其道者是氣也、

又道書全集金丹正理大全精氣說云、夫氣者天地万物莫不由之、在天地之外、包覆天地、在天地之內、運行天地、日月星辰得以明、風雲雷雨得以動、四時品物得以生、長收藏此唯天地間陰陽造化之氣尔、得勤而用之、又有二焉、二者何也、有先天天地之氣、有後天地之氣、今以後天地之氣為言、此氣生於穀、故從氣從米而蓄於胃、々亦得穀而生氣云々、又曰何謂先天氣、重陽翁云、五行不到處、父母未生前、會去未韻、說文、氣、本作气、雲氣也、象形、徐曰、象雲起之兒、今作氣則說文籀字也、古作气氣、廣韻道書作炁。

(三行余白)

性理字義、論老莊道曰、老莊說道、都与人、物不相干、皆以道為超乎天地器形之外、如云道在太極之先、都是說、未有一天地方物之初、有中箇空虛道理上

又論、弘一氏道曰、弘一氏論道大概亦是此意、但老氏以無為宗、弘一氏以空為宗、以下未有一天地之先、為吾真體、以天地地方物都為幻化、人、玄都為粗迹、盡欲屏除了、一、皈真空、乃為得道

又論、儒者道曰、道猶路也、當初命此字、是從路上起、意、人所通行、方謂之路、一人獨行不得、謂之路、道之大綱、只是日用間、人倫、玄物所當行之理、衆人所共由底、方謂之道、大概是就日用人、玄上說、方見得、人所通行底意親切、若就此推、原來歷、不是就人、玄上、劃然有箇道理、如此、其根原皆是從天來、故橫渠謂由太虛有三天之名、由氣化有道之名、此便是推、原來歷、天即理也、古聖賢說、天多是就理上論、理無形狀、以其自然而致、故謂之天、若就天之形體論也、只是箇積氣、恁蒼々、范々、實有、何形、實

又曰、道非是外、玄物、有箇空虛底、其實道不離乎物、離物則無所謂道、且如君臣有義、々底是道、君臣是器、若要、看義、底道理、須就君臣上看、不、成、脱了、君臣之外別有、所謂義、父子有親、々底是道、父子是器、若要、看得、親底道理、須就父子上看、不、成、脱了、父子之外別有、所謂親、即夫婦而夫婦在、所別、即長幼而長幼在、所別、即朋友而朋友在、所信、亦非、外夫、婦長、幼朋、友而、有、所謂、別、序與、信、聖門之學無、一、不、實、老氏清、虛、厭、玄、弘一氏、屏棄人、玄、他

都是把道理、做一物項、頭玄妙、底物看、把人一做、下面粗底、便要擺脫去。

△註謂經術政教之道也、是可道之解也、上道字不涉言語、故不下注解也、纂圖有解、夫道者

一元之至理云々、經術、經道也、不言經道、言經術者有味、會入質、術、心之所由、廣韻、

技術也、政教、會去敬以法正民曰政、以道誨人曰教

上所謂道老子之道、下所謂可道之道、周公孔子之道也、言虛無自然之道下、而成仁義禮智之道

也

○非常道、

△註非自然長生之道也、上陽子曰、道之体者自然也、道之用者虛無也、長生字應虛無

虛無自然之道無通塞、仁義禮智之道有通塞、故非常道

△常道當以無為養神、無妄安民、含光藏暉、滅跡匿端、不可稱道也、無為養神、虛心、

而養心王及身中之諸神也、道書全集精氣神說曰、夫神者妙萬物而依形而生、黃庭經曰、至

道不煩存真、泥丸百節皆有神、々名最多、莫能枚舉、身中三部、上部八景、髮神、腦神、眼

神、鼻神、口神、舌神、齒神、中部八景、肺神、心神、肝神、脾神、左腎神、右腎神、膽

神、喉神、下部八景、腎神、大小腸神、胴神、胸神、膈神、兩脇神、左陰神、右陽神、身

中九宮真人、心為絳宮真人、腎為丹元真人、肝為蘭臺宮真人、肺為尚書宮真人、脾為黃

庭宮真人、膽為天靈宮真人、小腸為玄靈宮真人、大腸為未靈宮真人、膀胱為玉房宮

真人、又有三元首九宮真人、双丹宮、明堂宮、丹田宮、泥丸宮、流珠宮、大帝宮、天庭宮、極真宮、玄丹宮、太皇宮、又有金樓重門十二亭長、身外有一万八千陽神、身內有一万八千陰神、共三万六千神所主者為絳宮真人、一名肉團神、即心王也、又有三身神、四智神、三魂神、七魄神、七元八識神、假名異字、難可悉數、心王為一身之君、万神為之聽命焉

6ウ

無_レ妄_レ安_レ民_ヲ 義無_レ隱 無_レ為_レ養_レ我_レ神_ヲ 故無_レ妄_レ安_レ民_也

含_レ光_レ藏_レ暉_ヲ 不_レ相_レ顯_レ威_レ光_レ德_レ暉_也 非_レ巧_レ而_レ不_レ相_レ顯_也 自_レ然_レ而_レ然_也

滅_レ跡_レ匿_レ端_ヲ 不_レ知_レ其_レ所_レ終_也 不_レ知_レ其_レ所_レ始_也

不_レ可_レ稱_レ道_ト 無_レ妄_レ跡_レ故_レ不_レ可_レ稱_レ道_ト 若_レ可_レ稱_レ道_者是_レ可_レ道_之道_也

是_レ下_レ第_二義_門而_レ解_レ之_ヲ 非_レ解_レ常_道 解_レ脩_レ行_常道_之趣_也

○名可_レ名

註謂_レ富_貴尊_榮高_世之名_ヲ 富_禄之_多也、貴_爵之_高也、榮_承于_富、尊_承于_貴、高_世誇_世也

是_レ可_レ名_名之_解也、上_名無_レ解、纂_圖有_レ解、夫_名者_三才_之總_稱 孝_經正_義曰、天_地謂_レ之_兩義_{、兼}

人_謂之_三才_、

僕_謂上_名有_レ其_名而_レ不_レ作_レ其_用也

7オ

○非_レ常_名

△註非_ス自_ニ然_ハ常_ト在_レ之_ニ名_ニ、道無_レ形故曰_ニ長_ト生_ト、名有_レ形故曰_ニ常_ト在_ト

常名當_レ如_下嬰_ノ兒_ノ之_レ未_レ言_、鷄_ノ子_ノ之_レ未_レ分_、明_ノ珠_ノ在_ニ蚌_ノ中_、美_ノ玉_ノ處_ニ石_ノ間_カ*

嬰_ノ兒_ノ之_レ未_レ言_、義無_レ隱_、會平庚徐按倉_ノ頡_ノ篇_、女曰_レ嬰_ト男曰_レ兒_ト

鷄_ノ子_ノ之_レ未_レ分_、未_レ出_レ卵_也

明_ノ珠_ノ在_ニ蚌_ノ中_、史_ノ記_レ龜_ノ策_ノ傳_ノ曰_、明_ノ月_ノ之_レ珠_ノ出_ニ於_レ江_ノ海_ノ藏_ニ於_レ蚌_ノ中_、山_ノ谷_ノ詩_、老_ノ蚌_ノ胎_ノ中_ノ珠_ノ是_レ賊_也

美_ノ玉_ノ處_ニ石_ノ間_、龜_ノ策_ノ傳_ノ曰_、玉_ノ處_ニ於_レ山_ノ而_レ木_ノ潤_、潤_ノ生_レ珠_而岸_ノ不_レ枯_{者_、}潤_ノ澤_ノ之_レ所_ノ加_也、僕_ノ謂_レ皆_{不_レ作_ニ}

其用_ノ之_レ謂_也、

△內雖_ニ昭_ノ々_ハ、外如_ニ愚_ノ頑_ノ者_也、內_ハ、心_ノ底_也、外_ハ、身_ノ所_レ行_也、

昭_ノ々_、會平蕭說_レ文_、昭_ハ、日_ノ明_也、愚_ノ頑_ノ荀_ノ子_ノ非_レ是_レ是_レ、非_レ之_レ謂_レ愚_ト、左_ノ傳_ノ心_ノ不_レ則_ニ德_ノ義_ノ之_レ經_ト曰_レ頑_ト

是又_下第_二義_門而_レ解_レ之_、非_レ解_ニ常_ノ名_ノ解_下可_ニ法_ノ行_ノ常_ノ名_ノ之_レ趣_也

○無_レ名_ハ天_ノ地_ノ之_レ始_、

△註無_レ名_者謂_レ道_、道無_レ形_、故不_レ可_レ名_也、義無_レ隱

△天_ノ地_ノ始_{者_、}道_ノ吐_レ氣_ノ布_レ化_、出_ニ於_レ虛_ノ無_、爲_ニ天_ノ地_ノ本_ノ始_也

吐_レ氣_ノ、生_ニ陰_ノ陽_ノ二_ノ氣_也、布_レ化_、四_ノ時_ノ運_レ轉_也

吐_レ氣_ノ布_レ化_ノ之_レ道_、出_ニ於_レ虛_ノ無_、爲_ニ天_ノ地_ノ本_ノ始_也、道_ノ書_ノ全_ノ集_レ精_ノ氣_ノ神_ノ說_ノ曰_、道_ノ自_ニ虛_ノ無_ノ生_ニ一_ノ氣_、便_レ從_ニ

一_ノ氣_ニ產_ニ陰_ノ陽_ノ

○有^ハ名^ナ万^{マン}物^{ブツ}之^ノ母^ノ

△註有^ハ名^ナ謂^フ天^{テン}地^チ一^ト々^ト々^ト有^ニ形^{シヨウ}位^イ、有^ニ陰^{イン}陽^{ヨウ}、有^ニ柔^{ジュウ}剛^{コウ}、是^レ其^ノ名^ナ也^{ナリ}

有^ニ形^{シヨウ}位^イ、天^{テン}高^ク在^ル上^ニ地^チ卑^ニ在^ル下^ニ之^ノ謂^フ

有^ニ陰^{イン}陽^{ヨウ}、寒^{サムイ}暑^{アツク}晝^{ヒル}夜^{ヨル}之^ノ謂^フ 有^ニ柔^{ジュウ}剛^{コウ}、木^キ火^カ土^ツ金^{キン}水^{スイ}之^ノ謂^フ 是^レ其^ノ名^ナ也^{ナリ}、義^ギ無^ク隱^{イン}

△万物^{マンブツ}母^ノ者^{ナリ}、天^{テン}地^チ含^ム氣^キ生^ス万^{マン}物^{ブツ}、長^{チカク}大^{ダイ}成^{セイ}就^ス如^ク母^ノ之^ノ養^{ヤウ}子^シ也^{ナリ} 義^ギ無^ク隱^{イン} 天^{テン}地^チ含^ム氣^キ 天^{テン}地^チ和^ハ合^{カフ}之^ノ義^ギ也^{ナリ} 陰^{イン}

陽^{ヨウ}二^ニ氣^キ交^{カウ}感^{カン}之^ノ謂^フ

○故^コ常^{ジョウ}無^ク欲^{ヨク}以^テ觀^ミ其^ノ妙^{ミョウ} 曲^{キョク}禮^{レイ}疏^ス故^コ承^{ゼウ}上^{ジョウ}起^キ下^ゲ之^ノ語^ゴ

△註妙^{ミョウ}要^{ヤウ}也^{ナリ}、人^{ニン}常^{ジョウ}能^ス無^ク欲^{ヨク}、則^{シテ}可^ク以^テ觀^ミ大^{ダイ}道^{ダウ}之^ノ要^{ヤウ}、々^ト々^ト謂^フ一^ト也^{ナリ}、一^ト出^デ布^フ名^ナ、道^{ダウ}讚^{サン}叙^{シヨ}明^{メイ}是^レ非^ヒ也^{ナリ}

妙^{ミョウ}、要^{ヤウ}也^{ナリ}、會^{カイ}去^キ嘯^{シヤウ}、妙^{ミョウ}、增^{ゾウ}韻^{イン}、神^{シン}化^カ不^レ測^{セツ}也^{ナリ}、又^{マタ}去^キ嘯^{シヤウ}、要^{ヤウ}樞^{シュ}要^{ヤウ}也^{ナリ}

常^{ジョウ}、平^{ヘイ}常^{ジョウ}也^{ナリ}、有^レ味^ミ、邂^{シャイ}逅^{トウ}而^{シテ}争^{セウ}觀^{カン}其^ノ妙^{ミョウ}

欲^{ヨク}會^{カイ}入^{ニツク}沃^{ボク}、欲^{ヨク}、情^{ジョウ}所^ノ始^シ也^{ナリ}、廣^{クワウ}聖^{セイ}義^ギ、疏^ス、欲^{ヨク}者^{ナリ}、性^{セイ}之^ノ動^{ドウ}、謂^フ逐^{シツ}境^{キョウ}而^{シテ}生^ス心^{シン}也^{ナリ} 無^ク欲^{ヨク} 明^{メイ}二^ニ明^{メイ}德^{タク}也^{ナリ}、大^{ダイ}学^{ガク} 8ウ

集^{シツ}註^{チュ}、明^{メイ}、明^{メイ}之^ノ也^{ナリ}、明^{メイ}德^{タク}者^{ナリ}、人^{ニン}之^ノ所^ノ得^{トク}乎^ニ天^{テン}、而^{シテ}虛^コ靈^{レイ}不^レ昧^{マイ}、以^テ具^ス衆^{シュウ}理^リ而^{シテ}應^{オウ}二^ニ万^{マン}事^ジ也^{ナリ}

性^{セイ}理^リ字^ジ義^ギ曰^ク、如^ク所^ノ謂^フ明^{メイ}德^{タク}者^{ナリ}、是^レ人^{ニン}生^ス所^ノ得^{トク}乎^ニ天^{テン}、本^{ホン}來^{ライ}光^{クワウ}明^{メイ}之^ノ理^リ、具^ス在^ル吾^ニ心^{シン}者^{ナリ}、故^コ謂^フ之^ノ明^{メイ}德^{タク}、如^ク

孩^{ガイ}提^{テイ}之^ノ童^{ドウ}無^ク不^レ知^チ下^ニ愛^{アイ}其^ノ親^{シン}敬^{キョウ}中^{チュウ} 其^ノ兄^{ケイ}、此^レ便^{ヒン}是^レ得^{トク}於^ニ天^{テン}本^{ホン}明^{メイ}處^{トコロ}

要^{ヤウ}、謂^フ一^ト也^{ナリ}、一^ト、太^{タイ}極^{キョク}也^{ナリ} 道^{ダウ}化^カ第^{ダイ}四^シ十^{ジュウ}二^ニ章^{シヤウ}曰^ク道^{ダウ}生^ス一^ト、注^{チュ}、道^{ダウ}始^シ所^ノ生^ス者^{ナリ}一^ト也^{ナリ}

一 出布名 四十二章又曰、一生二注陰与陽 二生三注陰陽生和氣清濁、三氣分為天地人、也
三生万物、注天地共万物也、天施地化長養之 是也、山河大地森羅万像、起乎一太極之
上、如百千万億之出乎一

讚叙 解述之義也、讚解也、叙述也

明是非 物有方圓、長短、剛柔、強弱、以方長剛強為是、則以圓短柔弱為非、以圓短
柔弱為是、則以方長剛強為非、言道讚叙明是非也者、一出布名之注釋也
言人常明明德、而使心不上不置、一箇塵芥、則觀大道之要、要一也、一、万物根元也、觀
得 其一、則山河大地森羅万像、粲然落在眼下

○常有欲以觀其微

△注微歸也常有欲之人可以觀世俗之所歸趣也

會平微、指趨曰歸也、 歸趣 企及之義也、

有欲 大學注、所謂為氣稟所拘人欲所蔽也、氣稟所拘、人欲所蔽之輩、能觀世俗之所歸
趣也、觀世俗之所歸趣者、利走名奔、而巧得其術也

大惠武庫曰、五祖和尚一日云、我這裏禪、似箇什麼、如人家會作賊、有一兒子、一日云、
我爺老後我却如何養家、須學箇業始得、遂白其爺、云云好得、一夜引至巨室、穿窬入宅、開
櫃乃教兒子入其中取中衣帛、兒終入櫃、爺便閉却復鎖了、故於廳上扣打、令其家驚覺、

乃先尋^ツ穿^テ竈^ヲ而去、其家人即時起^ニ來點^シ火燭^ヲ之、知^ル有^ト賊^ト但已去^リ了^ル、其賊^ノ兒在^ニ櫃^ノ中^ニ、私自語^テ曰、我^ノ爺何^ニ故^ニ如^レ此^ノ、正悶^々中却得^ニ一^ノ計^ヲ、作^ラ鼠^ノ咬聲^ヲ、其家遣^テ使^シ婢^ヲ點^シ燈^ヲ開^ク櫃^ヲ、々纔開^ク賊^ノ兒聳^テ身^ヲ吹^ク滅^シ燈^ヲ推^シ倒^シ婢^ヲ走出^テ、其家人趕^テ至^リ中^ノ路^ニ、賊^ノ兒忽見^ニ一^ノ井^ヲ、乃推^シ巨^ノ石^ヲ投^テ井^ノ中^ニ、其人却^テ於^ニ井^ノ中^ニ覓^テ賊^ノ兒直走^テ歸^リ家^ニ、問^フ爺^ヲ、々曰^ク你休^レ說^ハ、你怎生^ニ得^テ出^ル、兒具說^シ上^ノ件意^ヲ、爺云^ク、你恁^ニ麼^ニ儘^ニ做^レ得^{タリ}穿^テ竈^ヲ論^シ語^ヲ陽^シ貨^ヲ其猶^キ穿^テ竈^ノ之盜^ニ也與^カ、集註穿^テ穿^テ壁^ヲ竈^ヲ、踰^ル牆^ヲ廳^ノ上^ニ會^フ平^ノ青^ヲ、屋^ノ也

問^フ爺^ヲ 兒向^テ爺^ニ問^フ何^ニ故^ニ教^シ我^ヲ入^レ櫃^ニ也

你休^レ說^ハ 無^レ言^也

僕謂^ク賊^ノ之^ル於^ニ其^ノ兒^ニ、々々^ノ之^ル於^ニ其^ノ計^ニ、皆是常^ニ有^ル欲^ノ之^ル人^ニ、觀^{ナリ}世^ノ俗^ノ之^ル所^ニ歸^ル趣^ニ也

又謂^ク無^レ欲^ニ以^テ觀^ニ其^ノ妙^ヲ、如^シ論^シ語^ヲ言^フ君^ノ子^ノ喻^ニ於^ニ義^ニ、有^ル欲^ニ以^テ觀^ニ其^ノ微^ヲ、如^シ言^フ小人^ノ喻^ニ於^ニ利^ニ

廣^ク聖^ノ義^ヲ曰^ク、以^テ目^ヲ所^レ見^ル為^シ觀^ノ官^ト、以^テ神^ヲ所^レ鑒^ル為^シ觀^ノ實^ト、又曰^ク觀^ノ者^ハ外^ニ以^テ目^ヲ周^シ覽^シ、内^ニ以^テ神^ヲ照^シ徹^ス、目^ヲ覽^ス則^チ辯^シ乎^ニ有^ル無^ク、神^ヲ照^ス則^チ契^シ乎^ニ冥^ク寂^ク矣^ニ、觀^ノ妙^ノ之^ル觀^ノ音^ヲ貫^テ去^リ聲^ヲ、觀^ノ微^ノ之^ル觀^ノ音^ヲ平^ク聲^ヲ、僕謂^ク、故^ハ者^ハ、承^テ上^ノ起^リ下^ノ之^ル語^ヲ、以^テ是^ヲ見^ル之^ヲ、承^テ常^ノ道^ノ常^ノ名^ニ而^チ起^ル無^レ欲^ヲ、承^テ可^レ道^ノ可^レ名^ニ而^チ起^ル有^ル欲^ヲ

○此兩者同出而異名

△注兩者謂有欲無欲也、同出者、同出人之心也、而異名者、所名各異也、義無隱

△名無欲者長存、名有欲者亡身者也、無欲者終天命、故曰長存、有欲者不終天命、故曰亡身

○同謂之玄

△注玄天也、言有欲之人与無欲之人、同受氣於天也

玄、天也、素問卷第二陰陽應象大論曰、其在天為玄、王注、玄、謂玄冥、言天色高遠、尚未

盛明也

雖有欲之人、雖無欲之人、同受一元之氣、而無毫釐之差、是老子欲下教有欲之人明之、而復其初也

○玄之又玄

△注天中復有天也、復有天人也、道書全集精氣神說曰、独人身之中、全具天地陰陽造化之氣

性理字義曰、人物之生、不出乎陰陽五行之氣、本只是一氣分來有陰陽、々々又分來、為五行、二与五則管分合運行、便參差不齊、有清、有濁、有厚、有薄、且以人物合論、同是

一氣、但人得氣之正、物得氣之偏、人得氣之通、物得氣之塞、且如人形骸、却與天地相應、頭圓居上象天、足方居下象地、北極為天中央、却在北、故人百會穴在頂心、却向後、日月來往只在天之南、故人之兩眼皆在前、海鹹水所版在南之下、故人之小便亦在前下、此所以為得氣之正、如物則禽獸頭橫、植物頭向下、枝葉却在後上、此皆得氣之偏處、人氣通明、物氣壅塞、人得五行之秀、故為萬物之靈、物氣塞而不通、如火烟鬱在裏、所以理義皆不通。

△稟氣有厚薄、夫人得中和滋液、則生賢聖、得錯亂濁辱、則生貪淫。

稟氣 人稟天氣也 中和滋液 陰陽無過不及之謂

錯亂濁辱 太過不及也

性理大全卷之三十一曰、或人問自孟子子言性善而荀子言性惡、揚雄言善惡混、韓文公言三品及至橫渠張子分為天地之性氣質之性、然後諸子之說始定、性善者、天地之性也、餘則所謂氣質者也。

又云、自孟子子不說到氣稟、所以荀子便以性為惡、揚子便以性為善惡混、韓文公又以為性有三品、都只是說得氣、近世東坡蘇氏又以為性無善惡、五峯胡氏又以為性無善惡。又云、朱子曰、有天地之性、有氣質之性、天地之性、則太極本然之妙、萬殊之一本也、氣質之性、則二氣交運而生、一本而萬殊也。

又云、南軒張氏曰、原性之理、無有不善、人物所同也、論性之散乎氣質、則人稟天地之精五行之秀、固與禽獸草木異、然就人之中、不無清濁厚薄之不同、而實亦未嘗不相近也

又云、問、人之性其氣稟有清濁何也、曰、二氣迭運、參差萬端、而萬物各正性命、夫豈物々而與之哉、氣稟之不同、氣稟之不不同而其本莫不善、人欲初無體也、傳曰、人生而靜、天之性也、感物而動、性之欲也、直至物至知、々好惡形焉、然後有流而為惡者、非性所本有也

又云、張子所謂、氣質之性、形而後有、則天地之性乃未受生以前、天理之流行者

又云、形而後有氣質之性、所以有善惡之不同、何也、曰、氣有偏正、則所受之理、隨而偏正、氣有昏明、則所受之理隨而昏明、木之氣盛、則金之氣衰、故仁常多而義常少、金之氣盛、則木之氣衰、故義常多而仁常少、若此者、氣質之性有善惡也

又云、北溪陳氏曰、蓋人之所以下、殊不齊、只緣氣稟不同、這氣只是陰陽五行之氣、如陽性剛、陰性柔、火性燥、水性潤、金性寒、木性溫、土性遲重、七者來雜、便有參差不齊、所以人間所值便有許多般撲、然這氣運來運去、自有箇真元之會、如曆法算到二本數湊合、所謂日月如合璧、五星如連珠、時相似、聖人便是稟得這真元之會來、然天地間參差不齊之時多、真元會合之時少、如一歲間極寒極暑陰晦之時多、不寒不暑光風霽月之時極少、最難得恰好時節、人生多是值此不齊之氣、如下等人非常剛烈、是值陽氣多、有一等人極是軟弱、是值陰氣多、有人躁暴忿厲、是又值陽氣之惡者、有人狡譎姦險、此又值陰氣之惡者

又云、程子亦謂、有自幼而善、有自幼而惡、是氣稟有然也、斯豈天地本然之性云乎哉、若論

天—地本—然—之—性—、則程—子—曰—、性—即—理—也—、斯—言—尽—之—

○衆—妙—之—門—

△注能知—天—中—復—有—天—、稟—氣—有—薄—厚—、除—情—欲—守—中—和—、是—謂—知—道—要—之—門—戶—者—也—

言欲—教—貪—淫—之—人—而—入—中—聖—賢—之—域—也—

衆—妙— 萬—物—各—具— 一—理—之—謂—

廣—聖—義—曰—、衆—妙—門—者—、天—門—也—、天—門—者—、万—法—所—生—之—惣—名—也—

性—理—大—全—曰—、問—、性—、如—日—月—、氣—濁—者—、如—雲—霧—、曰—然—、又—云—有—是—理—、而—後—有—是—氣—、々々々々—則—必—有—

是—理—、但—氣—稟—之—清—者—為—聖—為—賢—、如—寶—珠—在—清—冷—水—中—、稟—氣—之—濁—者—為—愚—為—不—肖—、如—寶—珠—在—濁—

水—中—、所—謂—明—德—者—、是—就—濁—水—中—指—拭—此—珠—也—、物—亦—有—是—理—、又—如—寶—珠—落—在—至—污—濁—處—、然—其—所—

稟—亦—間—有—些—明—處—、就—上—面—便—自—不—昧—、問—物—之—塞—得—甚—者—、雖—有—那—珠—如—在—深—泥—裏—、面—更—取—不—出—、

曰—也—如—此—

又—云—、人—之—所—以—生—、理—与—氣—合—而—已—、天—理—固—浩—々—不—窮—、然—非—是—氣—則—雖—有—是—理—、而—無—所—湊—泊—、故—

二—氣—交—感—、凝—結—生—聚—、然—後—是—理—有—所—附—著—、凡—人—之—能—言—語—動—作—思—慮—營—為—、皆—氣—也—、而—理—存—焉—、故—

發—為—孝—弟—忠—信—仁—義—禮—智—、皆—理—也—、然—就—人—之—所—稟—而—言—、又—有—昏—明—清—濁—之—異—、故—上—智—生—知—之—資—、是—氣—

清—明—純—粹—而—無—一—毫—昏—濁—、所—以—生—知—安—行—不—待—學—而—能—、如—堯—舜—是—也—、其—次—則—亞—於—生—知—、必—學—而—後—

知、必行而後至、又其次者資稟既偏、又有所蔽須是痛加工夫、人一己百、人十己千、然後方能及下垂於生知者、及進而不可成也。

又云、學者須是變化氣質、或偏於剛、或偏於柔、必反之、如禽獸、是氣質之偏、不能反也、人若不_レ知_二自反_一、則去_二本性_一日以遠矣、若變化得_レ過來、只是本性所有、初未嘗增_レ添、故言_レ性者、須_下分別出_二氣質之性_上。

又云、天下之清莫如_レ水、先儒以_二水之清_一喻_二性之善_一、人無有_二不善之性_一、則世無有_二不清之水_一也、然黃河之水渾々_ト而流以至_二于海_一、竟莫能清者何也、請循_二其初_一、原者水之初也、水原於天而附_二於地_一、原之初出、曷嘗不_レ清也、出_二於泥塵之地_一者自_二其初出_一而混_二於其滓_一、則原雖_レ清而流不能_レ不_レ濁矣、非_二水之濁_一也、地則然也、人之性亦猶_レ是、性原於天而附_二於人_一、局_二於氣質之中_一、人之氣質不同、猶_二地之岩石泥塵有_レ不同也、氣質之明_レ粹者、其性自如_二岩石之水_一也、氣質之昏_レ駁者、從_レ性而變、泥塵之水也、水之濁_二於泥塵_一者、由_二其地_一、而原之所_レ自則清也、故流雖_レ濁、而有_二清_レ之道_一、河之水甚濁、貯_レ之以_レ器、投_レ之以_レ膠則泥沈_二於底_一、而其水可_レ食、甚濁固可使_レ之清也、況其濁不_レ如_二河之甚_一者乎。

(以下余白)

養身第二

○天下皆知_二美之為_レ美_一、廣_レ聖義曰、天下、舉_二大凡_一、言_二凡在_二天覆之下_一也。

注自揚己美使顯彰也 自揚己美、則有下毀人短意上

○斯惡己 知美之為美者、唯斯惡己也

注有危亡也 揚己美則毀人短、々々々々則有敵、々々々則有危亡也

○皆知善之為善

注有功名也 會平東說文以勞定國曰功、廣韻功績也、又平庚說文名、自命也、廣韻大也、功也、號也

○斯不善己 知善之為善者唯斯不善己也

注人所爭也 功名不遜于他、故人爭之

廣聖義疏、美者、心所甘美也、善者、身所履行也、言天下之人皆知下己心所甘美者為美、己身所履行者為善、故論甘則忌辛好丹則非素、共相傾奪

論語八佾曰、子謂韶尽美矣又尽善也、謂武尽美矣未盡善也、朱注、韶、舜樂、武、武王樂、美者聲容之盛、善者美之實也、大全朱子曰、美如人生得好、善則其中有德行也、實是美之所以然處

僕考列子黃帝曰、楊朱過宋、東之於逆旅、々々々人有妾二人、其一美人、其一人惡、々々者貴而美者賤、楊子問其故、逆旅小子對曰、其美者自美、吾不知其美也、其惡者自惡、吾不知其惡也、

楊子曰、弟子記之、行賢而去自賢之行、安往而不愛哉
書說命曰、有其善喪其善、矜其能喪其功

○故有無之相生 以故字承上之二句、起以下之六句

有無不_二獨立_一、有中_レ含_レ無_一、無中_レ含_レ有_一、故曰_二相生_一。

注見_レ有_レ而_レ為_レ無_一也。以_二人我_一對_レ之_一、則見_レ有_レ便_レ為_レ無_一、見_レ無_レ便_レ為_レ有_一也。

廣_一聖_一義疏、此明_二有_レ無_レ性空_一也、夫有_二不_二自有_一、因_レ無_レ而有_一、凡俗則以_レ無_レ生_レ有_一、無_二不_二自_一無_一、因_レ有_レ而_レ無_一、凡俗則以_レ有_レ生_レ無_一、故云相生而有_レ無_レ對_レ法本不_二相生_一、相生之名、由_二妄_一執_レ起_一、如_二美_一惡_レ非_二自_一性_一生_上、是皆空_一、故聖_一人將_レ欲_レ救_レ其迷_レ滯_一、是以歷_二言_一六_一者之惑_一。

○難_一易_一之相_一成_一

注見_レ難_レ而_レ為_レ易_一也。義同于前。

疏此明_二難_一易_一法空_一也、此以_レ難_レ故_レ彼_レ成_レ易_一、此以_レ易_レ故_レ彼_レ成_レ難_一、亦如_二工_一者易_二於_一木_一而難_二於_一陶_一、甄_一匠易_二於_一埴_一而難_二於_一木_一、故云難_一易_一相_レ成_一、若同_二其_一所_レ難_一、則無_レ易_一、同_二其_一所_レ易_一則無_レ難_一、々_一易_レ無_レ實_一、妄生_二名_一稱_一、是法_一空_一、故能_レ了_レ之_一者、巧_一拙_二兩_一忘_一、則難_一易_一名_一息_一、只如_二美_一惡_一無_二定_一故_一也。

17オ

○長_一短_一之相_一形_一

注見_レ短_レ而_レ為_レ長_一也。義同于前。

疏、此明_二長_一短_一相_レ空_一也、以_レ長_レ故_レ形_レ短_一、以_レ短_レ故_レ形_レ長_一、故云長_一短_一相_レ形_一、亦如_二鳧_一脛_レ非_レ短_一、以_二鶴_一之_レ長_一、故續_レ之_レ則_レ憂_一、鶴_一脛_レ非_レ長_一、因_二鳧_一之_レ短_一、故斷_レ之_レ則_レ悲_一、見_二長_一短_一相_一、猶_二美_一惡_一既_レ無_二定_一体_一。

○高下之相傾ルアリ

注見高而爲下也 義同于前

疏、此明高下名空也、高下兩名互相傾奪、故稱高必因於卑、又有高之者、稱下必因於高、又有下之者、又高則所高非高、又下則所下非下、如下彼代間凡諸名位通爲臣妾亦復無常、是皆空故、々無定位

17ウ

○音聲之相和スルアリ 注上唱下必和也 上唱、發聲也、下和、賡載歌也

○前後之相隨フアリ 注上行下必隨也

有無難易長短高下之四句、一意、音聲前後之二句一意、諸解畧作六句一意、河公且分之、故於是不言見音而爲聲也、見前而爲後也

會平侵、宮、商、角、徵、羽、聲也、絲、竹、金、石、匏、土、革、木、音也、又云詩序聲成文謂之音、禮記月令疏、雜比曰音、單出曰聲

廣聖義義曰、夫中道者非陰非陽無偏名也、處天地之間、傲然自放所遇、而安了無功名、而反乎道、本雖堯桀之殊、生死之變、是非之別、壽夭之異、榮賤之隔、哀樂之感、動古今之通、代、皆忘之也、不知堯桀之殊、忘美惡也、不知死生之變、忘有無也、不知是非之別、忘難

18オ

易、不知_レ壽夭之異、忘_レ長短也、不知_レ榮賤之隔、忘_レ高下也、不知_レ哀樂之感、忘_レ音聲也、不知_レ古今之通代、忘_レ前後也、六句一意之解也

○是以聖人處無為之衷、疏、是以、說下明上也

注以道治也、道、常道也、不知_レ美之為_レ美、不知_レ善之為_レ善之謂

○行不言之教、注以身師導之也、義無隱

義曰、夫聖人者、與天地合其德、日月合其明、四時合其序、鬼神合其吉凶、謂之聖人也、畧而言之、凡有五種、第一得道之聖太上老君諸天大聖是也、第二有天下之位兼得仙之聖、伏羲、黃帝、顓頊、少昊、堯舜是也、第三有天下之位、而無得仙之聖、殷湯文武是也、皆廓清六合、不言昇天矣、第四、博瞻之聖、無天下之位者、周公孔子、制作禮樂、垂範百王、而無九五之位、而皆具天地合德之美也、第五有獨長之聖、而無博瞻之名、亦不具上衆美者、謂百牙師文為鼓、琴之聖、子卿綏明、能基之聖、鍾期延州、知音之聖、韓娥秦青謳謠之聖、龔叔文摯智洞之聖、離朱師曠視聽之聖、張芝鍾繇草書之聖、今經中明者、指言理天下之聖也、理天下之聖、垂衣裳、恭己南面而已矣、何為哉所謂處無為之衷也、原天地美、達万物之理、順四時之行、君無為於上、物自化於下、可謂行不言之教也、理國如此、則人安其居、樂其俗、与道合矣

○万物作焉、以下举道之良能、而喻聖人之治

注各自動一作也 各、万物也、動作、出生之義也

○而不辭 不辭受也

注不辭謝而逆止也、會平支辭說文不受也、去禡謝說文辭去也、入陌逆說文卻也、上紙止廣韻、停息也

言、柳成綠花成紅、松葉細、荷葉圓、鳥飛天、魚躍洄、獸走山林、日夕夜夕、雖千變万化、道以不為方、能受之

○生而不有

注元氣生万物而不有也 元氣、無其形而有其理之謂 會上有有取也

言道雖發生万物、不取以為己私之謂

○為而不恃

注道所施為不恃望其報也 會上紙、恃說文賴也 義無隱

○功成而不居

注功成衰就退避不居其位也 會平東、功績也、說文以勞定國曰功 功成應于道、衰就應于

万物

為花不春住少時、速化夏而去、為月不秋住少時、速化冬而去之謂

義曰、夫功者王功曰勲、輔成王業、若周公也、國功曰功、保全國家、若伊尹也、民功曰

庸、施法於民、若后稷也、夏功曰勞、以勞定國、若夏禹也、理功曰績、制法成理、若咎繇也、戰功曰多、剋敵出奇、若韓信也、生成功物者玄功也、其功深遠曰玄也、功成而不居、所以全無為之功也

○夫唯不居 注夫唯功成不居其位也 義曰、夫唯者、發句之語也、會平虞夫語端辭 平支唯專辭也

省功成字加夫唯字、再言之者其堅也

○是以不去 聖主之於世民、如道之於萬物、是以福祿常在身而不去

注福德常在不去其身也 會入屋福百順之名、入職德躬有得之謂德 其身聖人也 義無隱

此言不行不可隨、不言不可知 此言 愆而解此一章之義 不行不可隨 經曰、前後之相隨注上

行下必隨 出于此、言、上不、行、下不可隨

不言不可知 經曰、行不言之教注以身師導之也 出于此、言、上不、言、下不可知

疾上六句有高下長短 有無難易長短高下音聲前後之六句也、摘中央之二句兼上下一

君開一源一下生三百端 三畧曰、一令逆則百令失、一惡施則百惡結

百端之變無不動亂也 義無隱

安民第三

○不_レ尚_レ賢_一

注賢、謂_二世俗之賢_一、辯_レ口明_レ文_レ離_レ道_レ行_レ權_レ去_レ質_レ為_レ文_レ也

世_一俗_レ之_レ賢_一 非_二真_レ賢_一也

辯_レ口_レ明_レ文_一 巧_ニ言_一語_ヲ明_ニ文_一章_一也

離_レ道_レ行_レ權_一 離_二經_レ道_レ行_レ權_レ道_一也 會平先、權反常也、漢儒以_二反_レ經_レ合_レ道_レ為_レ權_一

去_レ質_レ為_レ文_一 去_二質_レ樸_レ為_レ文_レ飾_一也

論語顏淵第十二曰、棘成子曰、君子質而已、何以文為、朱注棘成子衛大夫疾時人文勝一故為此言、子貢曰、惜乎夫子之說君子也、駟不及_レ舌言子成之言乃君子之意、然言出於舌、則駟馬不能追之、又惜其失言一文猶質也、質猶文也、虎豹之鞞猶犬羊之鞞、鞞、皮去毛者也、言文質等耳、不可相無、若必去其文、而獨存_二其質_一、則君子小人無_レ以辨_レ矣

僕謂子貢說中 河公矯之

不_レ尚_レ者不_レ貴_レ之以_レ祿_レ不_レ尊_レ之以_レ官_レ也 義無_レ隱

祿、俸_レ祿也、官、官_レ爵也

○使_レ民不_レ爭

注不_レ爭_二功_一名_一、反_二自然_一也 不_三尚_二用世_一俗_一之賢_一、故民不_レ爭_二功_一名_一、反_二自然_一也

○不_レ貴_二難_一得_レ之貨_一

注言人_一君不_レ御_二好_一珠_一

黃_一金_一弃_二於山_一、珠_一玉_一捐_二於淵_一也 實不_三弃_二捐_一之_一、不_レ拘_レ之謂、若實弃_二捐_一之_一、又是不_二弃_一捐_一也

世_一說_一、管_一寧_一字_一幼_一安_一與_二華_一歆_一共_二園_一鋤_レ菜_一、見_二地_一有_レ金_一、寧_一揮_レ鋤_二与_一瓦_一石_一不_レ異_一、歆_一捉_レ而擲_レ之_一、又嘗同_レ席_一、讀_レ書_一、有_レ乘_レ軒_一冕_一過_レ門_一者_一、寧_一讀_レ書_一如_レ故_一、歆_一廢_レ書_一而看_一、寧_一割_レ席_一分_レ坐_一曰_一、子非_二吾友_一也

○使_レ民不_レ為_レ盜_一

注上_レ化_レ清_一淨_一、下_レ無_二貪_一人_一也 上_レ化_一、人_一君_一之德_一化_レ也、貴_二用難_一得_レ之貨_一、則民為_レ盜_一不_レ止_一也

○不_レ見_二可_一欲_一 會_一上_一哥_一說_一文_一、可_一肯_一也、入_レ沃_一、欲_一情_一所_レ好_一也

注放_二鄭_一聲_一遠_二美_一人_一也 論_一語_一陽_一貨_一十七_一曰_一、子_一曰_一、惡_二紫_一之_一奪_レ朱_一也、惡_二鄭_一聲_一之_一乱_二雅_一樂_一也、惡_レ利_一口_一之

覆_二邦_一家_一者_一、集_一注_一、朱_一、正_一色_一、紫_一、間_一色_一、雅_一、正_一也、利_一口_一、捷_一給_一、覆_レ傾_レ敗_一也 ○范_一氏_一曰_一、天_一下_一之理_一正_一而勝_一者常_一少_一、不_一22オ

正_一而勝_一者常_一多_一、聖_一人_一所_一以_レ惡_レ之_一、利_一口_一之_一人_一、以_レ是_一為_レ非_一、以_レ非_一為_レ是_一、以_レ賢_一為_二不_一肖_一、以_二不_一肖_一為_レ賢_一、人_一君_一苟_一悅_一而信_レ之_一、則國_一家_一之覆_一也、不_レ難_一也 大_一全_一双_一峯_一饒_一氏_一曰_一、鄭_一衛_一之_一樂_一以_二淫_一聲_一乱_二正_一聲_一、

以_二其_一能_一悅_一人_一之_一耳_一也、故_一聖_一人_一惡_レ之_一

禮_一記_一十_一一_一樂_一記_一曰_一、魏_一文_一侯_一曰_一、吾_一端_一冕_一而聽_二古_一樂_一、則_一唯_一恐_一臥_一、聽_二鄭_一衛_一之_一音_一、則_一不_レ知_レ倦_一

○使_レ心不_レ乱

注不_レ邪_一淫_一也 邪、平麻、不正也、平侵媾說文私逸也、通作淫

上不_レ見_二可_一欲、則下使_レ心不_レ乱也

○是以聖人之治

注謂_二聖人治_一國猶_レ治_レ身也 猶治身者見以下之文

義曰、天真皇人謂_二皇帝_一曰、未_レ聞身理而國不理者、夫一人之身、一國之象也、胸腹之位、猶_二宮

室_一也、四支之別、猶_二郊境_一也、骨節之分、猶_二百官_一也、神、猶_二君_一也、血猶_二臣_一也、氣猶_二民_一也、知_レ理

身則知_レ理_レ國矣、**■**愛_二其民_一所以安_レ國也、吝_二其氣_一所以全_レ身也、民散則國亡、氣竭則身死、

亡者不可_レ存、死者不可_レ生、銷_二未_一起之患、理_二未_一病之疾、氣難_レ養而易_レ濁、民難_レ聚而易_レ散、理_二之於

無_レ妄之前、勿_レ追_二之於既逝之後_一、子勗之焉

○虚_二其心_一 注除_二嗜欲_一去_二乱煩_一也 義無隱

實_二其腹_一 注懷_レ道抱_レ一守_二五神_一也

成象第六注、神、謂_二五藏之神_一也、肝藏_レ魂、肺藏_レ魄、心藏_レ神、腎藏_レ精、脾藏_レ志

義曰惟_レ道集_レ虚、**々**心則道集_二於懷_一也、道_二集_二於懷_一、則神与_レ化遊、心与_レ天通

又曰、夫心者嗜_二好無窮_一、腹者含_二受有足_一、心無_レ窮、故_レ虚_レ之、腹有_レ足、故_レ實_レ之、心虚則衆_レ欲不_レ生、腹

實則貪_レ求自_レ止

又曰、内_レ觀_レ經曰、夫心者非_レ青、非_レ赤、非_レ白、非_レ黃、非_レ長、非_レ短、非_レ圓、非_レ方、大包_二天地_一、細入_二

毫芒^ニ、制^{スル}之^ヲ則止、放^{サハ}之^ヲ則往、清淨^{ナル}則生、濁躁^{ナル}則亡

○弱^シ其志^ヲ 義曰、夫心之所^レ起^ル為^レ志、所^レ行^フ為^レ志

注和柔謙讓^ニ不^レ處^ニ權^ニ也

○強^ス其骨^ヲ 疏、骨者^ニ骸之^ノ幹

注愛^ミ精重^ク施^ス 髓^ニ滿^テ骨^ニ堅^シ也 愛^シ惜^シ真^ニ元^ノ之^ノ氣^ヲ、遲^ニ重^ク施^ラ用^テ於^テ妄^ニ々^ニ、則^チ髓^ニ能^テ滿^テ而^シ骨^ニ能^テ堅^シ也 一義、愛^ミ精重^ク

施^ラ愛^シ惜^シ堅^ク精^ニ而^シ遲^ニ重^ク淫^ニ妄^ニ也

義曰、弱^ス其志^ヲ則^チ廉^ニ柔^ニ不^レ犯^ス於^テ外^ニ、強^ス其骨^ヲ則^チ堅^ク固^ニ有^レ備^ニ於^テ内^ニ 會上紙髓說^ニ文骨^ノ中脂

○常使^ニ民無^ク知無^ク欲^ス

人^ノ君^ノ虛^シ其心^ヲ、實^シ其腹^ヲ、弱^シ其志^ヲ、強^シ其骨^ヲ、而常使^ニ民無^ク知無^ク欲^ス也

注反^リ朴^ニ守^ル淳^ニ也 反^テ質^ニ朴^ニ、而守^ル淳^ニ素^ニ也

○使^ス夫知者^ヲ不^レ中^ニ敢^テ為^ス也 未^ダ使^ス無^ク知無^ク欲^ス之^ノ民、所^レ謂^フ夫知者^{ナリ}也、夫知者^ノ之下^ニ、加^テ欲^ス者^ノ之^ノ兩^ノ字^ヲ、可^レ見

之^ヲ、使^ス未^ダ無^ク知無^ク欲^ス一^ノ人^ノ上^ニ飯^ニ地^ニ無^ク為^ス天^ニ也

一義、夫知者、發^ス語^ヲ所^レ謂^フ不^レ尚^ク賢^ノ之^ノ賢^{ナリ}也

廣^ク聖^ノ義^ヲ曰、清^ク淨^ニ化^ス人^ヲ、尽^ス無^ク知^ク欲^ス適^ト有^テ知者^ヲ、令^テ敢^テ不^レ為^ス也、是又^ニ一義^也

注思^フ慮^ス深^ク不^レ輕^ク言^フ也 夫知者^ノ已^ニ化^ス、故思^フ慮^ス深^ク而^シ不^レ輕^ク言^フ也 義曰、下^ニ化^ス於^テ上^ニ、猶^シ風^ノ之^ノ偃^ス草^ヲ、淳^ニ和^ク普^ク

治^ス則皆返^ス無^ク為^ス一^也

○為^ハ無^ク為^ラ注不^ニ造^セ作^テ動^テ因^テ循^ス也

○則無^レ不^レ治^{ト云}矣 注德^一化厚^百姓安也

上^ノ之^ヲ為^シ字有^レ味、居^ニ自^ニ然^ニ而行^ニ自^ニ然^ニ之^ヲ謂^フ、然則無^ニ物^{ト云}而不^レ治^{ト云}也

義^ニ曰、無^レ為^シ之^ヲ理^ス其^ノ大^{ナル}矣哉、無^レ為^シ者非^ス謂^ニ引^テ而不^レ來、推^テ而不^レ去、迫^テ而不^レ應、感^シ而不^レ動、堅^ニ滯^ニ而不^レ流、

捲^テ握^シ而不^レ散^ス也、謂^フ其^ノ私^ニ志^ヲ不^レ入^ニ公^ニ道^ニ、嗜^シ欲^シ不^レ枉^ニ正^ニ術^ヲ、循^テ理^ニ而^テ拳^テ、因^テ資^ニ而立^テ功^ヲ、成^テ而^テ身

不^レ伐、功立^テ而^テ名^ヲ不^レ有、若^ク夫^ノ水^ニ用^テ船^ヲ、砂^ニ用^テ肆^ヲ、泥^ニ用^テ橈^ヲ、山^ニ用^テ樛^ヲ、夏^ニ瀆^テ冬^ニ陂^ヲ、因^テ高^ニ而^テ田^ヲ、因^テ下^ニ而

池^ニ、故非^ス吾^ノ所^ニ謂^フ為^シ也、乃無^レ為^シ矣、聖^ニ人^ノ之^ヲ無^レ為^シ也

書益^一稷沈^一氏注曰、水乘^レ舟、陸乘^レ車、泥乘^レ輶、救倫反山乘^レ樛、倫追反輶、史^一記^レ作^レ橈^ニ丘妖反、漢^一書^レ作^レ橈、

以^レ板^ヲ為^シ之^ヲ、其^ノ狀^ヲ如^シ箕、擗^レ陟^レ革^レ反^レ行^レ泥^ニ上^ニ、樛^一史^一記^レ作^レ橋、漢^一書^レ作^レ橈、俱^一玉^一反^レ以^レ鐵^ヲ為^シ之^ヲ、其^ノ形^ヲ似^シ錐、長

半^一寸、施^ニ之^ヲ履^ニ下^ニ、以上^レ山^ニ、不^レ蹉^サ倉^一何^一反^レ跌^ケ奇^一列^也

(以下余白)

(半葉余白)

無源第四 無^レ源^{無^ニ根^ニ源^ニ之^ヲ義^也}

○道^ハ沖^ニ而^テ用^テ之^ヲ 疏^ニ、沖^ハ、虛^{ナリ}也、謂^フ道^ニ以^テ沖^ニ虛^ニ為^シ用^テ之^ヲ

會^一平^一東^一、虛^一、說^一文^一虛^一器^一也、老^一子^一道^一虛^一而^テ用^テ之^ヲ、通^レ作^レ沖^ニ、又^一曰、沖^ハ或^レ省^レ作^レ冲^ニ、又^一和^レ也^{深^ニ也}

注沖、中也、道匿名藏、譽、其用在中者也 天何言哉四時行焉百物生焉之謂

○或不盈 注或常也、道常謙虛不盈滿也 功成而不居之謂 道雖為万物之宗似常謙虛而不盈

滿也

○淵兮似万物之宗 廣聖義、淵、深靜也、似字有味

注道淵深不可知也、似為万物宗祖也

義曰、道常謙虛而不盈滿、沖和澄澹處其中、深玄寂靜為物之主、故物失沖和之道、必致敗亡、人失沖和之道則至死滅、君失沖和之道則政擾民離、臣失沖和之道則名亡身辱、是以知沖和之道、万物恃之以安、為万物之宗

○挫其銳 注銳進也、人欲銳情進取功名、當下挫止之法、道不自見也

○解其紛 注紛、結恨也、當念道無為以解釋之上也

疏、挫、抑止也、銳、鈔利也、解、釋散也

○和其光 注言雖有獨見之明、當如闇昧、不當以曜乱人也 六韜曰、微哉聖人之德、誘乎獨

見、直解曰、衆人所不能見而樂之、而聖人獨見獨樂耳

○同其塵 注當與衆庶同垢塵、不當自別殊也

疏道之沖用於物不匱、在光則與光為一、在塵則與塵為一 義曰、光者、明淨也、塵者混乱也

○湛兮似或存

注言道湛然安靜、故長存不亡也

○吾不知其誰之子、疏、吾者老君自稱也

注老子言我不知、道所從生也

義曰、老君大聖、豈不知至道之宗本耶、設此疑似之詞、用曉迷方之俗尔

○象帝之先、廣聖義曰、吾不知道所從生、明道非生法、故無父、道者似存乎帝先尔、帝者生物之

主、象、似也

疏曰、帝者生物之主、興益之宗、又解云、兆見象、言此生物之帝能兆見物象、故謂之象帝尔、

注道似存、天帝之前、此言道乃先天地生也、至今存者、以能安靜湛然不勞煩也、義無隱

欲使人脩身法道也、河上解餘意

(以下余白)

虛用第五 於空虚之地、其用不盡

○天地不仁

注天施地化不以仁恩、任自然也。天以陽氣施之、地以陰氣化之、雖發生萬物、不為己

之仁恩、任之自然也。

義曰、夫以仁為仁則有執、不以仁為仁則無私、帝王之視羣生、猶天地之視萬物、々々自生自化、天地不以為功、羣生爰居爰處、帝王不以為惠。

○以三萬物為三葛狗。

注天地生三萬物、人最為貴。書泰誓曰、惟天地萬物父母、惟人萬物之靈。沈氏注、大哉乾元萬物資始、至哉坤元萬物資生、天地者萬物之父母也、萬物之生、惟人得其秀而靈、具四端備三善、知覺獨異於物。

天地視之、如葛草狗畜、不責望其報也。

會平虞說文、芻刈艸為也、又祭統士執芻、注稟也、上有、尔雅犬未成毫曰狗。

莊子外篇天運、夫芻狗之未陳也、林注芻狗結草為狗以解厭也、祭時所用、已則棄之。

廣聖義、不仁者、不為仁惠也、芻狗結草為狗也、犬以守禦則有弊蓋之恩、今芻狗徒有狗形

而無警吠之用、故無情於仁愛也、言天地視人、亦如人視芻狗、無責望尔。

義曰、禮記檀弓曰、仲尼之畜狗死、使子貢埋之、子曰、吾聞之弊帷不棄為埋馬也、君之

路馬死埋之以帷、弊蓋不棄為埋狗也、丘也貧無蓋、於其封也亦與之席、無使其首陷焉、恐其首直委於土也。禮記鄭注封當為窆、陷謂沒於土。又曰、路馬、君所乘者、其他狗馬死

不能以帷蓋。

○聖人^ハ不^レ仁^一注聖人愛養^ス萬民^ヲ、不^レ以^セ仁恩^ヲ、法^リ天地^ニ行^ニ自然^{ナリ}者也。義無隱、毀^テ仁末^ヲ而飯^キ仁本^ニ也。

○以^テ百姓^ヲ為^シ芻狗^ト注聖人視^テ百姓^ヲ、如^シ芻草狗畜^ノ、不^レ責望^シ其禮意^ヲ也。義無隱。

○天地之間注天地之間空^ニ虛和氣流行^ス、故^ニ万物自生^ス。陰陽中和之氣、無^ニ處不^レ臻^ト也。

人能除^キ情欲^ヲ、節^ニ滋味^ヲ、清^ニ五臟^ヲ、則神明居^レ之也。

除^ニ情欲^ヲ、七情六欲除^レ棄^{ナリ}之也。節^ニ滋味^ヲ、滋味美食^{ナリ}也、節^ハ不^レ過^サ也。清^ニ五臟^ヲ、五臟^ハ肝、肺、

心、腎、脾也。清^ハ不^レ濁^サ也。

神明居^レ之、神明得^テ其處^ヲ、故居^レ之不^レ去^也。

○其猶^ニ囊籥^ノ乎^一注囊籥中空^ニ虛、故能有^ニ聲氣^一也。天地之間空^ニ虛、而和氣流行^ス、猶如^シ囊籥之中空^一。

虛而能出^ニ聲氣^一也。

會入藥、說文、囊、囊也、又徐曰按^ニ字書^一有^レ底曰囊、無^レ底曰囊。

又入藥、說文、籥、本作^レ籥、樂之竹管三孔、以和^ニ衆聲^一也、又徐按^ニ詩左手執^レ籥^一、傳云、三孔笛也、又

詩注六孔、郭璞曰、如^レ笛三孔而短小、廣雅七孔、積名、籥躍也、氣躍而出。

廣聖義、囊者、籥也、籥者、笛也、囊之鼓^ニ風笛之運^レ吹^ス皆以^ニ虛而無^レ心^一、故能動而有^レ應、則天地之間

生^ニ物、無^レ私者、亦以^ニ虛無^一心^一故也。

疏曰、囊、籥也、謂^ニ以^ニ皮裹^ニ鼓^一風以吹^レ火也、籥、笛也。

義曰、橐乃皮橐以鼓風、籥乃竹管以運氣、橐鼓風、無籥不能運、籥運氣、無橐不能鼓、兩者相須而行、以明天地為橐五氣為籥含虛運動以生萬殊而無屈竭

○虚而不屈、動而愈出 注言空虚無有屈竭、時搖動之益出声氣也 虚而不屈、理也、動而愈出、

○多言數窮 多言多言語也、數窮、速尽之義也、會入覺、數、尔雅疾也、孟子支君數、註謂速數也、平東說一文、窮、極也

注多言害神、多言害身、口開舌举、必有禍患也 義無隱

○不如守中 中、道之微妙、而難見也

注不如守德於中、育養精神、愛氣希言也

(以下余白)

(一葉白紙)

成象第一六

○谷神不死 注谷養也、人能養神則不死也

疏、神者、不測為名、死以休息為義、不測之應、未嘗休息、故谷神不死

義曰、不死者、非謂死生之死、是休息之死
神、謂五臟之神也、肝藏魂、肺藏魄、心藏神、腎藏精、脾藏志、五臟尺傷、則五神去也

五臟各有名、總謂五臟之神者、神藏於心、々五臟之長也、拳其長而兼之

臟、會去漾、臟腑也、通作藏、又後馬融傳、平和臟腑、注韓氏外傳、精藏於腎、神藏於心、魂藏於

肝、魄藏於肺、志藏於脾、此謂五藏

32オ

靈樞第一本神篇曰、何謂德、氣、生、精、神、魂、魄、心、意、志、思、智、慮、請問其故、岐伯答曰、

天之在、我者德也、地之在、我者氣也、德流氣薄而生者也、故生之來謂之精、兩精相搏謂之神、隨神

往來者謂之魂、並精而出入者謂之魄、所以任物者謂之心、々有所憶謂之意、々之所存謂之

志、因志而存變謂之思、因思而遠慕謂之慮、因慮而處物謂之智、故智者之養生也、必順四時

而適寒暑、和喜怒而安居處、節陰陽而調剛柔、如是則僻邪不至、長生久視

馬氏注、此詳言人身德氣等義、而智者為能養生也、天非無氣而主之以理、故在、我之德天之

德也、地非無德而運之以氣、故在、我之氣、地之氣也、則吾之生德所流、氣所薄而生者也、故

謂之生、然生之來者謂之精、易曰、男女構精而万物化生、則吾人之精雖見於有生之後、而實由

有、生之初精、為之本也、人生有陰斯有營、有陽斯有衛、營衛相搏神斯見焉、其所謂魂者屬于陽、

然魂隨神而往來、其所謂魄者屬于陰、然魄則並精而出入、正以精對神而言則精為陰而神為陽、故

32ウ

魂屬神而魄屬精也、其所謂心意■志思智慮拳不外于一心耳、故凡所以任物者謂之心、素問靈蘭秘田論曰、心者君主之官神明出焉、則万物之夥、孰非吾心之所任者乎、由是心有所憶者意也、意有所存者志也、志有所變者思也、思有所慕者慮也、慮有所處者智也、此十三者愚人則傷之

五神、五臟神也、人形与神相具而立、素問第一上古天真論曰、形与神俱、而尽終其天年、度百歲乃去

○是謂玄牝 謂在玄牝之義也

注言不死之道在於玄牝、玄、天也、於人為鼻、牝、地也、於人為口、玄天也、素問注、玄謂玄冥、

言天色高遠、尚未盛明也 牝地也 會上軫、牝、畜母也、陰獸象地也

天食人以五氣從鼻入藏於心、五氣清微為精神聰明■音声五性、其鬼曰魂、々者雄也、主出入

於人鼻與天通、故鼻為玄也

五氣 風、熱、湿、燥、寒 清微 清淨微妙之義



精、體之靈、神、心之靈、聰、耳之靈、明、目之靈、音、声、口之靈

其鬼為魂 尔雅鬼之言歸、其鬼其所歸也 會平元、魂陽氣也

魂者雄也 雄、陽鳥也 雄、陽之義也、承玄牝之字而曰雄而已、別無義

地食_レ人以_二五味_一從_レ口入_テ藏_二於_レ脾_一、五味濁_レ辱為_二形體骨肉血脉_一六_レ情、其鬼曰_レ魄、々者雌也、主_下出_レ入_レ於_二人

口_ニ與_レ地通_上、故口為_レ牝也

五味 酸、苦、甘、辛、鹹 濁_レ辱 垢濁汚_レ辱之義 五_一氣無_レ體而輕、故曰_二清微_一、五_一味有_レ體而重、故

曰_二濁辱_一

形 如_三分稱_ニ 眼耳鼻之謂 體 合而稱之謂、骨、會入_レ月、骨肉之覈也、徐曰、覈、核也、肉、入屋說_レ文肉

蔽肉象形、徐曰、肉無_二象形_一、故象其為蔽 血入_レ屑積_レ名_レ血、濊也、出_二於_レ肉_一、流而濊_レ々 脉入_レ陌_レ說_レ文脉

血_一理之分_レ表_レ行_二體中_一者、本作_レ舂、徐曰、五臟六府之氣分流_四

其鬼為_レ魄 其鬼解_二于_レ前_一、會入_レ陌_レ魄、陰_レ神也

魄者雌也 雌、陰_レ鳥也、雌、陰_レ之義也、承_二玄牝_一之字_ニ而曰_レ雌而已、別無_レ義

素問第一_一六_レ節藏象論曰、天食_レ人以_二五_一氣、地食_レ人以_二五_一味、五_一氣入_レ鼻藏_二于_レ心肺_一、上使_二五_一色

修_レ明、音_レ聲能_レ彰_上、五_一味入_レ口藏_二於_レ腸胃_一、味有_レ所_レ藏、以養_二五_一氣、々和_レ而生、津液相_レ成、神乃自_レ生

馬氏注、陽為_レ氣、々本_二于_レ天_一而上、天之五_一氣乃_レ天之所_レ以食_レ人者也、故五_一氣入_二于_レ鼻_一、以通_二于_レ五_一藏、

而藏_二于_レ心_一肺、遂使_二五_一色修_レ明音_レ聲能_レ彰_上矣、陰為_レ味、々本_二于_レ地_一、而万_レ物之五_一味、乃地之所_レ以食_レ

人者也、故五_一味入_二于_レ口_一以通_二于_レ六_一腑、而藏_二于_レ腸胃_一、遂使_レ味有_レ所_レ藏以養_二五_一氣、則氣和_レ而生津液

相_レ成、神氣乃自_レ生矣

素問第一_一陰陽應象大論東方之下、馬氏注曰、其在_二天_一五_一氣為_レ風、在_二

地_一五行_一為_レ木、在_二人_一五_一體為_レ筋、在_二五_一藏為_レ肝、在_二五_一色為_レ蒼、在_二五_一音為_レ角、在_二五_一聲為_レ呼、

在三五變為握、在三五竅為目、在三五味為酸、在三五志為怒、名雖萬殊、理無二致、皆屬之木而已

南方之下注曰、其在天五氣為熱、在地五行為火、在人五體為脉、在五藏為心、在五色為赤、在五音為徵、在五聲為笑、在五變為憂、在五竅為舌、在五味為苦、在五志為喜、名雖萬殊、理無二致、皆屬之于水而已

中央之下注曰、其在天五氣為濕、在地五行為土、在人五體為肉、在五藏為脾、在五色為黃、在五音為宮、在五聲為歌、在五變為噦、在五竅為口、在五味為甘、在五志為思、名雖萬殊、理無二致、皆屬之于土而已

西方之下注曰、其在天五氣為燥、在地五行為金、在人五體為皮毛、在五藏為肺、在五色為白、在五音為商、在五聲為哭、在五變為欬、在五竅為鼻、在五味為辛、在五志為憂、名雖萬殊、理無二致、皆屬之于金而已

北方之下注曰、其在天五氣為寒、在地五行為水、在人五體為骨、在五藏為腎、在五色為黑、在五音為羽、在五聲為呻、在五變為慄、在五竅為耳、在五味為鹹、在五志為恐、名雖萬殊、理無二致、皆屬之于水而已

私云

在天五氣 風、熱、濕、燥、寒 在地五行 木、火、土、金、水 在人五體 筋、脉、肉、皮毛、骨
在五藏 肝、心、脾、肺、腎 在五色 蒼、赤、黃、白、黑 在五音 角、徵、宮、商、羽

在五聲 呼、笑、歌、哭、呻 在五變 握、憂、噦、欬、慄 在五竅 目、舌、口、鼻、耳

在五味 酸、苦、甘、辛、鹹 在五志 怒、喜、思、憂、恐

義曰、夫玄天也、於人為鼻、牝地也、於人為口、元和之氣、惠照之神、在人身中出入鼻口、呼吸相應以養於身、故云谷神也、又天之五氣、從鼻而入、其神曰魂、上與天通、地之五味從口而入、其神曰魄、下與地通、言人養氣則與天為徒、久而不已、可以長生、陽鍊陰也、食味則與地為徒、久而不已、生疾致死、陰鍊陽也

○玄牝之門、是謂天地之根、玄牝之門、鼻口之竅也、天地之根、通於天地之根元也

注根元也、言鼻口之門、是乃天地之元氣、所從往來也、

天地之元氣、五氣五味也

○綿々乎若存、會平先、綿不絕兒

若存 若存 若亡之謂 若之字有味

注鼻口呼吸喘息、當綿々微妙、若可存、復若無有也 呼吸 會平虞、出息為呼、入息為吸

喘息 上銑說文喘疾息也、入職息徐曰、自鼻也、氣息從鼻出、呼吸係于口、喘息係于鼻

微妙 難測之謂

疏綿々、微妙不絕之意也

○用之不勤、用之、養用鼻口之氣也、不勤 寬舒而不急疾也 此四字受用底

注用氣當寬舒、不當急疾勤勞也 義無隱

(以下余白)

韜光第七 會平豪說文、韜、釵衣也、增韻藏也、韜光、聖人閉藏德光、而不相彰之義 經所謂

後身外身是韜光之謂

○天長地久 注說天地長生久壽以論教人也 於是聊解一章之大意

疏天以氣象故稱長、地以形質故稱久 義曰、老君將明天地長久之義、以教中理世之君、故於三章首、自拳其問、天以氣象者、列子云、天積氣也、無處無氣、地積塊也、無處無塊、積氣為象、々々、虛也、積塊為形、々々、實也、易繫辭曰、在天成象、在地成形、變化見矣、上象下形、故能變化肇生万物也

*私云長無窮之義也久不朽之義也

○天地所以能長且久者、以其不自生也 注天地所以獨長且久者、以其安靜施不求報

者、以其安靜施不求報

獨長、自開闢至今日、獨長也、獨長、無妄之義也

不如下人居處汲々求自饒之利、奪人以自與上也 義無隱

居處、居處世間也、汲々會入緝說文汲引水於井也、增韻、汲々不休息兒

○故能長生 注以其不求生故能長生不終也 義無隱

○是以聖人後其身 是以、以天地之理也

注先_レ人_ニ而後_レ己_ニ也 義無_レ隱

○而身_ニ先_ニ以_レ後_ニ其身_ニ故身_ニ先_ニ也

注天_ニ下_ニ敬_レ之先_ニ以_レ為_レ官_ニ長_ト也

○外_ニ其身_ニ内_ニ外_ニ之_ニ時_ニ外_ニ疎_レ而_レ内_ニ親_レ也

注薄_レ己_ニ而厚_レ人_ニ也

○而身_ニ存_ニ以_レ外_ニ其身_ニ故身_ニ存_ニ也

注百_ニ姓_ニ愛_レ之如_レ父_ニ母_ニ神_ニ明_ニ祐_レ之若_レ赤_ニ子_ニ故身_ニ常_ニ存_ニ也 神_ニ明_ニ天_ニ

理_ニ之_ニ所_ニ行_ニ

義_ニ曰_ニ理_レ國_ニ不_レ矜_レ貴_ニ以_レ有_レ為_レ不_レ勞_レ人_ニ以_レ自_レ奉_レ所_レ謂_レ後_レ身_ニ外_レ身_ニ也 太_ニ古_ニ之_ニ君_ニ志_ニ包_レ天_ニ地_ニ澤

及_レ天_ニ下_ニ而_レ不_レ知_レ其_ニ誰_ニ氏_ニ其_ニ生_ニ無_レ爵_ニ不_レ有_レ其_ニ位_ニ也 其_ニ死_ニ無_レ諡_ニ不_レ名_レ其_ニ功_ニ也 其_ニ實_ニ不_レ聚_ニ其_ニ名_ニ不

立_レ天_ニ下_ニ樂_レ推_レ万_ニ物_ニ欣_レ戴_レ可_レ謂_レ後_レ身_ニ而_レ身_ニ先_レ外_レ身_ニ而_レ身_ニ存_ニ也 世_ニ之_ニ衰_ニ也 其_ニ君_ニ則_レ不_レ然_ニ恣_ニ身_ニ之_ニ欲_ニ而

役_ニ於_レ人_ニ殫_ニ人_ニ之_ニ力_ニ以_レ奉_レ其_ニ己_ニ人_ニ勞_レ政_レ弊_ニ天_ニ下_ニ去_レ之_ニ此_ニ所_レ謂_レ外_レ身_ニ後_レ身_ニ之_ニ道_ニ也 豈_ニ若_レ碎_ニ琥_ニ

珀_ニ之_ニ枕_ニ焚_ニ雉_ニ頭_ニ之_ニ裘_ニ罷_ニ一_ニ臺_ニ之_ニ費_ニ却_ニ千_ニ里_ニ之_ニ馬_ニ德_ニ垂_ニ當_レ代_ニ名_ニ光_ニ竹_ニ帛_ニ乎_ニ修_レ身_ニ之_ニ士_ニ不_レ嗜_ニ榮_ニ

辱_ニ外_ニ其身_ニ也 不_レ為_レ躁_レ進_ニ後_ニ其身_ニ也 如_レ此_ニ則_レ身_ニ存_ニ而_レ德_ニ充_ニ々_ニ々_ニ則_レ人_ニ服_レ可_レ謂_レ身_ニ先_ニ身_ニ存_ニ矣 反_ニ於_レ此_ニ

者_ニ道_ニ遠_ニ乎_ニ哉

○非_レ以_ニ其_ニ無_レ私_ニ耶 注_ニ聖_ニ人_ニ為_レ人_ニ所_レ愛_ニ神_ニ明_ニ所_レ祐_ニ非_レ以_ニ其_ニ公_ニ正_ニ無_レ私_ニ所_レ致_ニ乎

○故_ニ能_レ成_ニ其_ニ私_ニ以_レ其_ニ無_レ私_ニ故_ニ能_レ成_レ私_ニ也

注_ニ人_ニ所_レ以_レ為_レ私_ニ者_ニ欲_ニ以_レ厚_レ己_ニ也 故_ニ不_レ成_レ私_ニ也

聖人無私而已自厚、故能成其私也

(以下余白)

易性第八 易、難易之易也、性、本然之性也、言本然之性、易而不難也 上善若水是也

一說、易、變易之義也、性、氣質之性也、變易氣質之性、而復本然之性也、所謂上善若水者、

拳水而論教愚人一也

*疏老君拳水為喻、以勸修道之人、欲令體七善三能、修身理國、兼以不銷之德、故無尤過之

夏

○上善若水 注上善之人如水之性也

義曰、上善之士、體道修心、應變隨時、縱橫利物、老君欲顯上善之德、以勸後學之人、以

水与道相隣、故拳水為喻、上善有善而忘其善、如水之不矜其功、水不矜功、其功益大、善不伐

善、其善益彰、既大且彰、為善之上矣、上惟南面之主、下泊栖巖之人、能如水焉必得道矣

○水善利萬物 注水在天為霧露、在地為泉源也

義曰、夫水之為德也、柔弱平和、居順處下、隨時壅決、任器方圓、流作泉源、散作霧露、凡

物失之則死、得之則生、擊之無傷、執之無有、所以不及於道者、水有形而道無形也、雖有形

為礙、其於利物之德、謙冲之用、近於道矣

○而不爭、處衆人之所惡 注衆人惡卑湿垢濁、水獨靜流居之也

義曰、甘者水之味也、涼者水之體也、水為氣之母、王於北方、以潤下為德、其色黑、其性智、其味鹹、其數六、北方者、陽德之始陰氣之終也、生數一與道同也、道亦為一、即無一之一、水亦為一、即有一之一也、無一之一、為道之體、有一之一、為道之用、則明水者道之用也、一切物類、皆資潤澤而得生成以能潤、故而生萬物、故處三能之首也

『39ウ

又曰、柔弱者、水之德也、德經第四十一章云、天下柔弱莫過於水、重拳水德以勸守柔矣、夫其水也居平則不流、法以平恕為本、故可取法也、水之不流、靜能鑒物、故曰人莫鑒於流水、而鑒於止水、以其清且靜也、水性平也、故值不平則逝、值坎澤則止、東西南北隨引所行、

不與人爭、無所不可、校量衆德、又云、不及生利物之功、故次三能也

又曰、人之性徇常者衆、謙順者寡、好居上位、惡處下流、唯夫水也處下不爭、居汚不辱、比

前之德、前德為勝、故為三能也

○故幾於道矣 注水性幾與道同也 廣聖義曰、幾近也

疏 去道不遐、故云近尔

○居善地 注水性善喜於地、在草木木之上、即流而下 義無隱

有似於牝動而下人也 牝言女、人言男、水之性、如女之隨男

○心善淵 深而明也 注水性空虛、淵深清明也

*空虛清明如鏡之移物也

○與善仁 注万物得水以生、與虛不與盈也 義無隱 會平真通論曰、仁者兼愛、故人二為仁、又莊

『40オ

子愛^ニ人利^レ物^ヲ、謂^ニ之^ハ仁^ト。

○言善^ハ信^ト 注水内^ニ影照^ス形^ヲ、不^レ失^ニ其情^ヲ也。

言、流水有声之謂 雖流水震動而成響、移物内其影照其形、方^々物、**■**圓[■]圓物、而不失己之其情也 如^ハ

火是外^ニ影而照^ス其形^ヲ也、外^ニ影而照者、其形不^ニ分^一明^ト。

○政善^ハ治^ト 會去敬、積名曰、政正也、下所取正、左傳杜預曰、在^レ君為^レ政、在^レ臣為^レ政、又大曰政小曰政、

注無^レ有^レ不^ニ洗^一清且平^ト也 水之於^レ物、洗^ニ清垢^一濁、而已平^一直也、傾則不^レ止^ト。

○叟善^ハ能^ト 叟之義解^ニ於前^一 能會平蒸、增^ニ韻勝^一任^{ナリ}也。

注能^ハ方能^ニ圓^一、曲^ニ直隨^レ形^ニ也 不^ニ一^一般^ナ者善能也。

○動^ク善^ク時^{トキヲ} 注夏散冬凝、應^ニ期而動^ク、不^レ失^ニ天時^一也。

水之於^レ時、炎^一天則散而為^ニ急雨^一、寒^一天則凝而為^ニ堅冰^一、能應^ニ其期^一、而動^一搖者、不^レ失^ニ天時^一也。

居善地以下七^一善也。

○夫唯不^レ爭 注壅^ニ之則止決^レ之則流^ル、聽^ニ從^一人也。

夫唯之字有^レ力、雖^ニ幾^一度不^レ爭。

○故無^レ尤^{トカ} 注水性如^レ是、故天^一下無^レ有^ニ怨^一尤^ル水者^上也。

於^レ是^ニ上^ニ善若^レ水四字、可^レ會^ニ一^一章之大^一意^ト。

義曰、不^レ爭之德、々之先也、凡人^ノ之性不^レ能^レ無^レ爭、為^レ爭之者、其叟衆也、乱^ニ逆^一必^ニ爭、暴慢^ニ必^ニ爭、

忿^ニ恚^一必^ニ爭、奢^ニ泰^一必^ニ爭、矜^ニ伐^一必^ニ爭、勝^ニ尚^一必^ニ爭、違^ニ悞^一必^ニ爭、進^ニ取^一必^ニ爭、勇^ニ怯^一必^ニ爭、愛^ニ惡^一必^ニ爭、專^ニ恣^一必^ニ爭、

争、寵嬖必争、王者有_レ一_ニ於此_ニ、則興_二師海内_一、諸侯有_レ一_ニ於此_ニ、則兵交_二其國_一、卿大夫有_レ一_ニ於此_ニ、則賊乱_二其家_一、士庶人有_レ一_ニ於此_ニ、則害成_二於身_一、皆起_レ於無_二思慮_一、愆_レ禮_レ法_レ、不_レ畏_レ懼_レ、不_レ容_レ忍_レ争_レ乃興焉、故争_レ城者殺_レ人盈_レ城、争_レ地者殺_レ人盈_レ野、必當_レ察_二起_レ争之本_一、塞_レ為_レ争之源_レ、無_レ不_レ理矣

又曰、體_二茲七善_一、遵_レ彼_二三能_一、國_レ泰長_レ生_レ之要也

(以下余白)

運夷第九 會去問、運、說文遼徙也

會平支、夷、平也、五運平夷之義也

○持而盈之、不_レ如_二其已_一 注盈滿也已止也持滿必傾不_レ如_レ止也

義曰、持_レ盈之喻、凡有_二四義_一、一者堅持_二欲心_一、至_二於盈滿_一、二者保_レ持_二世財_一、至_二於盈滿_一、三者執_レ持_二惡行_一、至_二於盈滿_一、四者持_レ權恃_レ祿至_二於盈滿_一、大_レ凡知_レ進忘_レ退、不_レ念_二善道_一、執_レ滯不_レ廻、以至_二盈滿_一者、皆當_レ有_レ報、欲_レ心盈滿者得_二羸疾傷生報_一、世_レ財盈滿者得_二攻_レ切侵_レ奪報_一、惡_レ行盈滿者、得_二刑_レ厄殘_レ害報_一、權_レ祿盈滿者、得_二傾覆淪滅報_一、所以老子戒_レ之不_レ如_二休止_一、不_レ休不止、斯報必驗

○揣而銳之、不_レ可_二長保_一 會去露 銳利也

無_レ源章曰、挫_二其銳_一 注銳進也、言平_レ治之後更欲_二進取_二功名_一、則其身傾_レ覆也

注揣治也先揣_レ之後必棄_レ捐也 當_二暴_レ乱之時_一先揣_レ之、而後可_二必棄_二捐之_一之義也、不_レ棄_二捐之_一則殃及_二其身_一也

義曰、夫王者銳於開墾拓土、則人怨國亡、人臣銳貪利圖名、即身危禍及

○金玉滿堂、莫之能守、會平陽、堂殿也

注嗜欲傷神財多累身也 胸中嗜欲多則傷神、身外貨財多則累身

疏曰假使貪求不已、適令金玉滿堂象既有齒而焚其身、鷄亦為犧而斷其尾、且失不貪之寶坐

貽致寇之憂以三其賈、害此覆釋持盈也

義曰、象有齒而焚其身者、春秋襄公廿四年、晉范宣子為政、諸侯之幣重、鄭人病之、二月鄭伯

如晉、子產寓書於子西以告宣子、曰子為晉國、四隣諸侯、不聞令德、而聞重幣、僑也惑之、

僑聞君子長國家者、非無賄之患、而無令名之難、夫諸侯之賄、聚於公室、則諸侯貳、左傳注、已下同

貳、離也、私僕加之、若吾子賴之、則晉國貳、注、賴、恃用之、諸侯貳則晉國壞、晉國貳、則子之家壞、

何没々也、注没々、沈滅之言、將焉用財、夫令名德之興也、注德、須令名以遠聞、德、國家之基也、有基無

壞、無亦是務乎、有德則樂、々則能久、詩云、樂只君子、邦家之基、有令德也夫、注詩小雅言君

子樂美其道、為邦家之基、所以濟令德、恕思以明德、則令名載而行之、是以遠至迓安、毋寧使人

謂子、々實生我、而謂子浚我以生乎、注浚、取也、言取我財以自生、象有齒焚其身、賄也、注、焚、斃也

宣子◇、乃輕幣、是行也鄭伯朝晉、為重幣故也、鷄斷尾者、春秋周景王子朝之傅賓孟適

郊見雄鷄自斷其尾、嘆曰、犧牲之用、存乎全而肥碩、今自斷其尾、使己不全、冀免為犧之

用、鷄之保其身也如此、況於人乎、貪利而忘其身、志不及鷄矣、不貪之寶者、鄭人有得玉獻於

子罕、曰此寶也、將獻之、子罕曰、汝以玉為寶、我以不貪為寶、我若取玉俱喪寶矣、不如何

全レ之、遂不レ受レ玉、致レ寇者、易解卦六三詞曰、負且乘致寇至、負者、小人之亘也、負擔於物合ニ是小一人、乘者君子之器也、今小一人捨負擔而乘車、是小一人而乘君子之器矣、故竊盜之人、思奪レ之矣

左傳昭公二十二年曰、王子朝賓起有寵於景王、注王子朝、景王之長庶子、賓起子朝之傅

王與賓孟說之欲立之、注孟即起也王語賓孟、欲立子朝為太子、劉獻公之庶子伯蚡、穆公、注獻公劉摯、伯蚡劉狄、穆公單旗惡賓孟之為人、願殺之、又惡王子朝之言以為亂願去之、注子朝有

欲位之言、故劉蚡惡之賓孟適郊見雄雞自斷其尾、問之侍者、曰自憚其犧也、注畏其為犧性奉宗廟、故自殘毀

雞犧雖見寵飾、然卒當見殺若人見寵飾則當貴盛、故言異於雞、犧者實用人、人犧實難、己犧

何害、注言設使寵人如寵犧、則不宜假人以招禍難、使犧在己、則無患害、己喻王子朝、欲使王早寵異之

王弗應、注十五年太子壽卒、王立子猛、後復欲立子朝、而未定、賓孟感難盛稱子朝、王心許之、故不應

僕考解象有齒而焚身者、則用左氏之全文、解雞自斷其尾者、不用左氏之全文、其心合

與其心不合也、而今記全文、而顯其異矣

○富貴而驕、自遺其咎、遺其咎於身也

注夫富當賑貧、貴當憐賤、而反驕恣、必被禍患者也、經警其心、注說其行

義曰、財多曰富、故人求之、位高曰貴、故人下之、滿而不溢、所以長守富也、高而不危、所

以長守富也、高而不危、所以長守富也、高而不危、所以長守富也

所以長守富也、高而不危、所以長守富也、高而不危、所以長守富也

所以長守富也、高而不危、所以長守富也、高而不危、所以長守富也

所以長守富也、高而不危、所以長守富也、高而不危、所以長守富也

所以長守富也、高而不危、所以長守富也、高而不危、所以長守富也

所以長守富也、高而不危、所以長守富也、高而不危、所以長守富也

以長守レ貴也

○功成名遂身退、天之道

注言人所為功成、立名、跡稱、遂、不_レ退_レ身、避_レ位、則遇_二於害_一、此乃天之常道也、譬如日中、則移、月滿

則虧、物盛則衰、樂極則哀也、義無隱

義曰、禦災除患曰功、富貴尊榮曰名、功既成矣、名既遂矣、而不知退者、鮮不及禍、夫何故哉、

寵則有辱、盛則有衰、元極則悔、高鳥尽而良弓藏、狡兔死而獾犬烹、勢使然也、范蠡扁舟而脱

禍、夫種固位而喪身、此之謂矣

或問曰、功成名遂者、必可身退否、曰必退、不_レ得_二其道_一而退者、非退也、貽咎於身、則禍何避

林、得_二其道_一而不退者、積德於身、則禍何及市朝、又問得_二其道_一而不退者、其行如何、曰孝經

云、在_レ上不驕、高而不危、制節謹度、滿而不溢、又問言_二必退_一者何哉、曰有_二不足_一則非成、非遂

問者唯而退

(以下余白)

(半葉余白)

能為第十 能為者、能為無為之謂

經曰、天門開闔能為雌乎

○載營魄會去隊、載舟車運物也、淮南子曰、天氣為魂、地氣為魄、白虎通曰、魂者云也、

猶云々行不休也、魄者迫也、猶迫々著於人、云、水轉流兒迫逼也、附也、又入陌魂者、神也、陽也、

氣也、魄者、精也、陰也、形也、魂氣皈於天、體魄復於地、

注營魄魄也、會平庚回旋曰營、回旋、魂之義也、運氣論曰、天高寥廓、六氣回旋、以成於四、

時、地厚幽深、五行生化、以成於萬物、可謂無窮、

人載魂魄之上、得_レ以生、當_レ愛_レ養_レ之、人載魂魄之上、如_レ以_レ物_レ載_レ舟車之上、愛_レ養_レ舟車而載_レ之、則舟車

不_レ損、而物亦不_レ傷、不_レ愛_レ養_レ而載_レ之、則舟車損而物亦傷、

義曰、西昇經云、身者、神之車也、

喜怒哀魂、卒驚傷魄、魂在肝、魄在肺、美酒甘肴、腐人肝肺、是不_レ知_レ載_レ魂魄之謂、廣聖義

注曰、**魄**則陰虛、**魂**則陽滿、**義**曰、虛魄者陰氣有象、人之形也、

陽氣無形、人之神也、形之具而陽氣未_レ附、則魄然無_レ知、如_レ頑石枯木、陽氣既降、即能運動、故以

形為魄

喜則不_レ覺而_レ氣、怒則強而_レ氣、魂者、陽滿也、故於**喜**怒失_レ魂、魄者陰虛也、人當安閑之時、

卒驚則失_レ魂也

故魂靜、志道不_レ亂、魄安、修德延年也、是載_レ魂魄之謂、義無_レ隱

○抱^テ一能無^レ離^ハ乎^ヤ 是^レ載^コ得^ノ魂^ノ魄^ニ之^レ謂^ニ 何^ハ為^シ魂^ノ靜^ニ魄^ノ安^ヤ乎^ヤ 抱^テ一能無^レ離^ハ而^レ已^シ

注言人能抱^テ一^ヲ、使不^レ離^ハ於^レ身^ニ、則長存也、一者、道始所^レ生^{ナル}、太^ノ和^ノ之^レ精^ニ■氣也、故曰一布^ニ名^ヲ於^レ天^ノ下^ニ

太^ノ和^ノ精^ノ氣^者、天^ノ地^ノ和^レ合^シ、而^レ生^ス萬^ノ物^ノ之^レ謂^ニ

天得^レ一^ヲ以^テ清^ク、地得^レ一^ヲ以^テ寧^ク、侯^ノ王^ノ得^レ一^ヲ以^テ為^シ正^ニ平^ニ、法本第三十九曰、昔^ノ之^レ得^レ一^ヲ者、天得^レ一^ヲ以^テ清^ク、地得^レ一^ヲ

以^テ寧^ク、神得^レ一^ヲ以^テ靈^{ナリ}、谷得^レ一^ヲ以^テ盈^{ミテリ}、萬^ノ物^ノ得^レ一^ヲ以^テ生^ス、侯^ノ王^ノ得^レ一^ヲ為^シ天^ノ下^ノ正^ニ、其^レ致^シ之^ヲ

天不^レ得^レ一^ヲ不^レ以^テ清^ク明^{ナリ}、地不^レ得^レ一^ヲ不^レ以^テ安^{ナリ}寧^{ナリ}、侯^ノ王^ノ不^レ得^レ一^ヲ不^レ以^テ正^ニ平^ニ、天^ノ之^レ清^ク明^{ナリ}、地^ノ之^レ安^{ナリ}寧^{ナリ}、侯^ノ王^ノ之^レ

正^ニ平^ニ、皆起^ス於^レ道^ニ而^レ已^シ

侯、諸侯、王、天下之王

入^テ為^シ心^ト出^テ為^シ行^ト、布^ス施^ス為^シ德^ト、惣^ス名^ヲ為^シ為^シ一^ト、一^ノ之^レ為^シ言^ト、至^リ一^ニ無^ク二^也 義無^レ隱

○專^ニ氣^ヲ致^ス柔^ニ、專^ハ廣^ク韻^ニ、自^ラ足^{ナリ}也、增^ス韻^ニ、純^{ナリ}篤^{ナリ}也、謂^フ不^レ散^ル乱^セ精^ノ氣^ニ、充^ス滿^ス一^ノ身^ニ、則^シ其^ノ身^ノ不^レ剛^{ナリ}強^{ナリ}、致^ス中

柔^ハ順^{ナリ}也

注專^ニ精^ノ氣^ヲ使^シ不^レ乱^ル、則^シ形^ノ體^ノ能^レ應^ジ物^ニ、而^レ柔^{ナリ}順^{ナリ}也

疏曰、專^ハ專^一也、氣^ハ冲^ク和^ク妙^{ナリ}氣^也、人^ノ之^レ受^ル生^ヲ、冲^ク和^ク為^シ本^ト、若^シ染^ス雜^ス塵^ノ境^ニ、則^シ冲^ク氣^ノ離^リ散^ル神^ノ不^レ

固^ク身^ノ故^ニ戒^メ令^テ專^一、冲^ク和^ク使^シ致^ス柔^ニ弱^ニ能^レ如^シ嬰^ノ兒^ノ無^ク所^レ耽^ル著^ス、此^ノ教^ヲ養^フ氣^也

○能^レ如^シ嬰^ノ兒^ノ乎^ヤ

注能^レ如^シ嬰^ノ兒^ノ、内^ニ無^ク思^フ慮^フ、外^ニ無^ク政^ヲ妄^ニ、則^シ精^ノ神^ノ不^レ去^ル也

内者、言^フ心^ヲ、外者、言^フ身^ノ之^レ所^レ行^也

義曰、守道之士、當如嬰兒、無染雜思慮、使神不離身、西昇經曰、哀人不如哀身、々々、不_レ如_レ愛_レ神、々々、不_レ如_レ含_レ神、々々、不_レ如_レ守_レ真、又曰、神愛_レ人、々々、不_レ愛_レ神、是以老君教_レ人養_レ神養_レ氣也

○滌除玄覽

注當_下洗_二其心_一使_中潔_上清也、心居_二玄冥之_一處、覽_二知_レ方_一妄、故謂_二之_一玄覽也 玄冥之處

○能無疵乎

注不_二淫_一邪也

廣_レ聖義注曰、玄覽、心照也、疵、瑕病也、滌除、心照、使_レ令_レ清淨、能無_二疵病_一乎、疏曰、滌者、洗也、除、理也、義曰、心之照也、通_レ貫_レ有_レ無_レ、周_レ遍_レ天_レ地_レ、因_レ機_レ即_レ運_レ、隨_レ境_レ即_レ馳_レ、不_下以_二澄_上靜_一制_レ之、則動_レ淪_二染_一欲_レ、既_レ滯_二染_一欲_レ、則_レ万_レ惡_レ生_レ焉、万_レ惡_レ生_レ、則_レ疵_レ病_レ作_レ焉、老君戒_レ令_レ洗_レ滌_レ除_レ理_レ、剪_レ去_レ欲_レ心_レ、々々、照_レ清_レ淨_レ、則_レ無_二疵病_一、西昇經曰、生_レ我_レ者_レ神、殺_レ我_レ者_レ心、故_レ制_レ志_レ意_レ、還_レ思_レ慮_レ者、謂_レ教_レ人_レ修_レ心也

○愛民治國

注、治_レ身者_レ愛_レ氣、則_レ身_レ全_レ、治_レ國者_レ愛_レ民、則_レ國_レ安也

愛者、愛_レ惜也、先_レ言_二治_レ身者_一、興_二治_レ國者_一、下_レ注_二同_一矣

○能無知乎

注治身者、呼吸精氣、無令耳聞也、治國者、布德施惠、無令下知也、呼吸亦愛惜之義也、見

于下注

無令下知者、不為己功之謂

疏曰、愛民者、使之不暴卒、役之不傷性、理國者、務農而重穀、夏簡而不煩、人安其生、

不言而化矣

○天門開闔

注天門、謂北極紫宮、開闔、謂終始五際也

論語正義曰、案爾雅釋文曰、北極、謂之北辰、郭璞曰、北極、天之中以正四時、然則極中也、

辰、時也、以其居天之中、故曰北極、以正四時、故曰北辰、漢書天文志曰、中宮、太極星其

一、明者泰一之常居也、旁三星、三公環之、匡衛十二星、藩臣、皆曰紫宮

48ウ

漢書翼奉傳曰、臣聞之於師曰、天地設位、縣日月、布星辰、分陰陽、列五行、以視聖人名

之曰道、聖人見道、然後知王治之象、故畫州土、建君臣、立律歷、陳成敗以視賢者

名之曰經、賢者見經、然後知人道之務、則詩、書、易、春秋禮樂是也、易有陰陽、詩有五際

注應劭曰、君臣、父子、兄弟、夫婦、朋友也、孟康曰、詩內傳曰、五際、卯、酉、午、戌也、陰陽終始、際會之歲、於

此則有變改之政也、春秋有災異、皆列終始、推得失、考天心、以言王道之安危

(以下余白)

天門、謂鼻孔、開、謂喘息、闔、謂呼吸也。上先言天、而此言人、上文傍、而此文正也。

○能為雌乎

注治身、當如雌、牝安、靜柔弱、治國、當如應、變和而不唱也。雌、陰鳥也、牝、陰獸也、義無隱應、相應也、變、變化也、唱、導也、先也、言相應四時之變化、而和以不於爭先之謂。

○明白四達

注言道明白、如日月四通滿於天下八極之外。韻府入職。八極、方隅極處。道明白、得道之明白也。

義曰、明白、惠照也、惠照之心照無遠近、煥然四達、所無隔遠。故曰、視之不見、聽之不聞、彰布之於十方、煥々煌々也。

贊元第十四章曰、視之不見名曰夷、聽之不聞名曰希、搏之不得名曰微、此三者不可致詰、此文係下所謂能無知乎之句。會去翰、煥、明也、廣韻、文彩明兒、會平陽、說文、煌々、輝也、此文係於

明白四達之句

○能無知乎

注無有能知道滿於天下者也。義無隱

義曰、人君負^テ獨^ニ見^ル之^ノ明^ニ、以^テ御^ス四^ノ海^ヲ、其^ノ政^ヲ察^シ々^々民^ヲ凋^シ弊^ス矣、老^シ君^ヲ戒^メ令^テ忘^ル功^ノ息^ヲ、昭^シ、亦^モ猶^ト黻^ヲ纁^ヲ塞^ル耳^ヲ以^テ

閉^シ其^ノ聰^ヲ、冕^ヲ旒^ヲ垂^テ目^ヲ以^テ杜^ル其^ノ明^ト也

○生^ク之^ノ畜^ス之^ノ 注道生^テ三^ノ万^ノ物^ヲ而^{シテ}畜^ス養^ス也 義無^レ隱

○生^ク而^{シテ}不^レ有^ク 注道生^テ三^ノ万^ノ物^ヲ無^レ所^ニ取^ル有^ク也 義無^レ隱

○為^シ而^{シテ}不^レ恃^ル 注道所^ニ施^ス為^シ不^レ恃^ル其^ノ報^ヲ也 義無^レ隱

○長^ク而^{シテ}不^レ宰^ス 注道長^ク養^フ万^ノ物^ヲ、不^レ下^シ宰^ス割^リ以^テ為^ス器^ノ用^ト也

宰^ス割^リ、分^リ裂^ス之^ノ義
器^ノ用^ト、從^テ大^ニ小^ニ長^ク短^ク、而^{シテ}用^テ成^ス之^ノ義

○是^レ謂^フニ^テ玄^ノ德^ト

注言^ハ道^ヲ行^フレ^テ德^ヲ玄^ニ冥^ニ不^レ可^ク得^ル見^ル、欲^シ使^フ人^ヲ如^ク道^ノ也

(以下余白)

(一葉余白)

へこの間、倭名類聚抄の一条及び三才圖會車之條下の「車制之圖」を移写せる別紙一枚が綴じ込まる

無^レ用^ト第^ニ十^ニ一^ニ用^ト、在^リ無^レ用^ト而^{シテ}無^レ尺^ノ之^ノ謂^ト

經曰、有之以為利無之以為用

○三十輻共一轂

注古者車三十輻、法三月數也、共一轂者、轂中有孔、故衆輻湊之

會平魚、車、輿、輪、總稱、古史考曰、黃帝作車、引重致遠、少昊時加牛、禹時奚仲加馬

周禮冬官考工記曰、車有三六畫之數、注車有三天地之象、人在其中焉、六等之數、法易之三材

六畫、疏車有三天地之象者、下文云、軫之方也以象地、蓋之圓也以象天、是車有三天地之象也、云三人

在其中焉者、在車蓋之中也、云六等之數、法易之三材六畫者、易說卦云、立天之道、曰陰

與陽、立地之道、曰柔與剛、立人之道、曰仁與義、兼三材而兩之、故易六畫而成卦、兼

三材者、天有陰陽、地有柔剛、人有仁義、三材六畫、一材兼二畫、故車之六等之法也、私云、52

軫、戈、殳、戟、矛、加人而六等也、軫、輿後橫木、戈、殳、戟、矛、皆劔戟也

又曰、輻也者以為直指也

又曰、軫之方也、象地也、蓋之圓也、以象天也、輪、輻三十、以象日月也

會入屋說文、轂、輻所湊也、老子曰、三十輻共一轂、各者居輪之正中而為輻之所湊



治身者、當下除情去欲使五臟空虛、神乃皈之也、治國者、寡能惣衆、弱共扶強也

寡、上一人也、衆、下万人也、扶強、扶成強也

老君引而不發、河公已發之

○當其無有車之用

注無謂空虛也、轂中空虛、輪得轉行、輦中空虛、人得載其上

會平真說文、有輻曰輪、無輻曰輗、又平魚說文、輿、車底也

漢書輿服志曰、上古聖人、見轉蓬始知為輪、各行可載、因物知生、復為之輿、々々輪相乘、流

運罔極任重致遠、天下獲其利

疏曰、輻三十貫於一轂、明少者多之所宗也、當其虛無、方有車之運用、明無者有之所利也

○埴埴以為器

注埴、和也、埴、土也、和土以為飲食之器、義無隱

○當其無有器之用

注器中空虛、故得有所盛受也

疏曰、範、和粘土、燒成瓦器、亦取其中空虛、以用盛受物也

義曰、和土為器、亦彰因有而用無、凡曰器用、其形万殊、大小不同、方圓各異、或巧、或拙、

或賤、或珍、而所用皆用器中空無之處尔

○鑿戶牖以為室

注謂作室屋也、注言戶牖空虛、人以得出入觀視、室中空虛、人得以居處、是其用也

○當其無有室之用

會上慶說文、戸、護也、半門為戸、又外曰門、內曰戸

上有穿壁以木為交窓也

疏曰、鑿、穿也、門傍窓謂之隔、古者穴居、故詩云、陶復陶穴、謂穿鑿穴中之土、以復覆其

上、故云鑿尔、後代聖人易之以宮室、取其室中空虛、所以人得居處

○故有之以為利、有、万物也、為利、得其宜也

注物利於形、器中有物、室中有入、恐其屋之破壞、腹中有神、畏形之消亡也

物利於形者、万物

各愛其形之義也、形者、神之室也、故畏消亡也

○無之以為用、注言虛無者、乃可用盛受物也、故曰虛無能制有形、道者空也

義曰、夫道之無也、資有以彰其功、無此有則道功不彰矣、物之有也、資道以稟其質、無此道則物不生、物非道不能生成、道非物不顯功用、亦猶車器室三者、皆取其因無以利有、因有以用無也

又曰、顯道之用、以形於物、々稟有質、故謂之器、々者有形之類也、聖人法道之用、制以為器、畫卦觀象、制以文字、剡木為舟、刻木為楫、斷木為杵、掘地為臼、弦木為弧、剡木為矢、制為宮室、結為網罟、服牛乘馬、負重致遠、鑄金為兵、揭竿為旗、剡木為耜、採木為耒、一以以上以利天下、此皆分道之用以為器、物尔、皆易繫所稱、此乃道是無体之名、形是

有質之用、凡万物從無而生、衆形由道而立、先道而後形、道在形之上、形在道之下、故自形而上、謂之道、自形而下、謂之器。

(以下余白)

換欲第十二 會上琰、換束也、言換束貪欲也、換束儉約不恣之謂、

經曰、為腹不為目

○五色令二人目盲 五色、蒼、赤、黃、白、黑也、蒼、木色、春也、赤、火色、夏也、黃、土色、土

用也、白、金色、秋也、黑、水色、冬也、盲、會平庚說文、目無牟子、目珠子謂之眸

注貪淫好色、則傷精失明也 貪淫者、欲物太過之義 好色者、太愛五色之義 傷精者、毀傷精

神也、失明者、損清明也

義曰、目不見五色、謂之盲、五色之設、本以彰五行之象、別尊卑之飾、翫而滯之、匪目盲乎

○五音令二人耳聾 五音、角、徵、宮、商、羽也、角、木音、春也、雙調徵、火音、夏也、黃鐘宮、

土音、土用也、一越商、金音、秋也、平調羽、水音、冬也、盤涉

聾 會平東說文、聾、無聞、積名籠也、如下在蒙籠之內不可察

注好聽五音則和氣去心不能聽無聲之聲

和氣中_一和之氣也

義曰、耳不聞_二五_一聲、謂_二之_一聾、五_一聲之設、本以_レ通_二天_一地之氣、彰_二五_一行之聲、悅而滯_レ之、不_レ曰聾乎

○五_一味令_下人口_一爽_上、五_一味、酸、苦、甘、辛、鹹也、酸、木味、春也、苦、火味、夏也、甘、土味、

土_一用也、辛、金味、秋也、鹹、水味、冬也

注爽、妄也、人嗜_二於五_一味、則口_一妄言失_二於道_一也

爽 會上養、爽、差也 嗜、過_レ中之謂、口妄者、不_レ知_二正_一味也、言失_二於道_一者、如_レ以_レ甘成_レ苦、以_レ苦成_レ甘之謂

義曰、口不_レ辯_二五_一味、謂_二之_一爽、五_一味之設、本以_レ調_二五_一行之和、以_レ養_二於人_一、美而耽_レ之不_レ曰爽乎

又曰、夫目悅_二妖_一麗之色、耳耽_二鄭_一衛之聲、口嗜_二珍_一鮮之味、則心有_二滯_一著不_レ通、而流_レ遁忘_レ返

僕按 五_一色五_一音五_一味之注、於_二五_一色注、不_レ言_レ不_レ能_レ見_二無_一色之色、於_二五_一味注、不_レ言_レ不_レ能_レ辯_二無_一味

之味、於_二中五_一聲注、獨言_レ不_レ能_レ聽_二無_一聲之_二聲_一者何哉、匪_二啻_一執_レ中而畧_二上_一下_一、太有_二意_一味、上注言

失_レ明、下注言_レ言失_二於道_一、所謂無_レ聲之聲、非_下於_二無_一聲之地、別有_二真_一聲_一而聽_レ焉、無_レ色之色、非_下於_二無_一色之地、別有_二真_一色_一而見_レ焉、無_レ味之味、非_下於_二無_一味之地、別有_二真_一味_一而辯_レ焉、以下五_一味得_レ中、而

無_二過不及_一者、為_二無_一味之味也、嘗者以_レ得_レ中而無_二過不及_一者、為_二無_一聲之聲、以下五_一音得_レ中而無_二過不及_一者、為_二無_一聲之聲也、聽者以_レ得_レ中而無_二過不及_一者、為_二無_一色之色也、見者以_レ得_レ中而無_二過不及_一者、為_二無_一色之色也、言_レ別有_二真_一色真_一聲真_一味者、

及_二者_一、為_二無_一色之色也、見者以_レ得_レ中而無_二過不及_一者、為_二無_一聲之聲、以下五_一色得_レ中而無_二過不及_一者、為_二無_一色之色也、言_レ別有_二真_一色真_一聲真_一味者、

及_二者_一、為_二無_一聲之聲也、聽者以_レ得_レ中而無_二過不及_一者、為_二無_一聲之聲、以下五_一音得_レ中而無_二過不及_一者、為_二無_一聲之聲也、聽者以_レ得_レ中而無_二過不及_一者、為_二無_一色之色也、見者以_レ得_レ中而無_二過不及_一者、為_二無_一色之色也、言_レ別有_二真_一色真_一聲真_一味者、

及_二者_一、為_二無_一色之色也、見者以_レ得_レ中而無_二過不及_一者、為_二無_一聲之聲、以下五_一色得_レ中而無_二過不及_一者、為_二無_一色之色也、言_レ別有_二真_一色真_一聲真_一味者、

即是釈氏之徒也、剩言以目而听以耳而見、於儒門論之、不言無声之声、無色之色、無味之味、而言五味之和、五色之和、五声之和而已

○馳騁田獵、令人心發狂、白虎通曰、田獵、四時之田惣名

注人精神好安靜、馳騁呼吸、精神散亡、故發狂也

會平支說文、馳、大驅也、增韻、疾驅也、會上梗說文、騁、直馳也、廣韻、馳騁走也、會平虞出息為呼入息為吸、馳騁呼吸者、於田獵過中之謂

義曰、畋獵者、國之正禮也、時而行之、則為禮、不時而溺之、則為亂、亦猶人之四支百體屈伸動靜、得其宜、則合於禮、違之則為狂矣、禮、天子諸侯每歲三畋、一為乾豆、祭祀宗廟也、二為賓客、交二國之好也、三充君之庖、食以時也、時而不畋則曰不敬、畋不以時、則謂之暴、所以春蒐夏苗秋獮冬狩、皆伺農隙、以講武、豋也、獮未祭魚、網罟不施於川、豺未祭獸、置罟不通於野、鷹隼未擊、罝羅不張於林、修祭禽之禮、展驅之仁、順天時也、又曰、外作禽荒、暴物犯時、十旬不返、馳騁莫已、遂為發狂、人怨國危、失禮致禍也、况人之欲心、馳騁逐境爭奔、外溺色声、内傷神氣、發狂於身乎

○難得之貨、令人行妨

注妨、傷也、難得之貨、謂金銀珠玉、心貪意欲、不知厭足、則行傷身辱也

會去簡、鄭康成曰、金玉曰貨、布帛曰賄、泉穀曰財

義ニ曰、材ハ器者、性ノ分ナリ之貨也、珠ハ珎者、世ノ間之貨也、性ノ分ニ所レ無之貨、矯テ竊テ即行傷ニ珠ハ珎ヲ、難レ得之貨、貪ニ求則身ハ辱ル、所レ宜任ニ其性ノ分ニ、守ニ彼天常ヲ矣、人ノ君貪ニ求珎ハ異ヲ、則下ノ怨民殘ル、理テ身貪ニ求珎ハ異ヲ、則行ハ傷身ハ辱ル、是乖ニ失天ノ倪ヲ也、天ノ倪者、天ノ然ノ之分也

○是以聖人ハ為腹ヲ

注守ニ五性ヲ、去ニ六情ヲ、節ニ志ノ氣ヲ、養ニ神明ヲ也

五性者、五行之性也、六情者、喜、怒、哀、樂、愛、惡也、志ハ氣者、志ハ心之所レ之也、氣ハ氣質之氣也、節ハ操也、又制也、神明者、天ノ理之在レ我也

○不レ為目ヲ 注目不ニ妄視ニ泄ニ精於外ニ也

義ニ曰、不レ為目者、以其ノ妄見妄視、滯リ於色塵、傷レ性ニ乖ク和、聖人不レ取、為腹者、懷ニ質ノ樸、抱ニ忠ノ信、食ニ元和、薄シ滋味、可ク以致ニ道、可ク以化ニ民、聖人為之

○故去彼取此 注去彼目之妄視、取此腹之養性也

義ニ曰、腹者、容テ受而無情、故取之、目者、觸テ見而有欲、故去之

(以下余白)

(裏面余白)

厭耻第十三 會平鹽說文、厭、飽也、通作厭

耻、耻辱也、厭耻者、厭去耻辱之義也

經曰、及吾無身吾有何患乎

○寵辱若驚

注身寵亦驚、身辱亦驚 寵、寵榮也、辱、汚辱也、又曰、寵、愛也、人愛我之義、辱、惡也、

人惡我之義

廣聖義注曰、操之則慄、捨之則悲、未忘寵辱、故須驚

義曰、聖人睿鑑、得喪混同、尚以死生為一條、豈復寵榮而辱懼、故戒之曰、得寵亦驚、此則

寵辱齊一得喪混同也、所以言驚者、寵為辱本、安得無驚

○貴大患若身

注貴、畏也、若、至也、畏大患至身、故皆驚也

大患者何哉、亡身也、寵是大患之兆、辱是大患之漸至也、以寵辱而即為一箇之大患也、

以寵辱、而即為一箇之大患者何哉、合抱之木、生於毫末、大層之臺、起於累土、

○何謂^{ラカ}寵^ト辱^ト 注問何謂^{ラカ}寵^ト何謂^{ラカ}辱^ト 寵者尊^ハ榮^ト、辱者耻^ノ及^ル身^ニ、還^テ自問者^ノ、以^テ曉^ス人也^ヲ

○寵為^ラ上^ト 注寵為^ラ尊^ト榮^ト也

○辱為^ラ下^ト 注辱為^ラ三下^ト賤^ト也

義^ニ曰、老^ニ君恐^ル人未^レ曉^ル前義^ヲ、拳^テ問欲^ス以^テ重^シ明^ニ、既立^テ問者^ノ之詞^ヲ、乃為^テ對^ス答^ス之理^ニ云

○得^テ之若^ク驚^ク 注得^テ寵^ヲ榮^ヲ驚^ク者[、]處^キ高^ニ位^ニ如^シ臨^ル危^ニ也、貴^ニ不^レ敢^テ驕^ル、富^ニ不^レ敢^テ奢^ル也



○失^テ之若^ク驚^ク 注失^ト者失^レ寵^ヲ處^レ辱^ニ也、驚^ク者恐^ル禍^ノ重^ク來^ル也

疏^ニ曰、得^サ則^ハ為^ル寵^ト、失^サ則^ハ為^ル辱^ト、若^ク驚^ク者、夫寵辱循環、寵為^ル辱本、代^リ間衆生、得^サ寵則忻喜、得^サ辱則

驚懼、聖人戒云、禍福循環、譬^ニ之糺纏^ニ、寵辱無^レ定、豈可^ヤ獨驚^ル辱來^ル、既驚^ル其禍患、寵至^テ亦驚^ル其

僥^ニ逸^ニ、其驚相若^ク、故結云、寵辱若^ク驚

義^ニ曰、得^テ寵不^レ驚、得^テ辱懼^ル者、常情也、寵至^テ而懼^ル其僥^ニ逸^ニ、辱來^テ而知^ル其禍^ノ患^ノ者、君子也

○是謂^ラ寵辱若^ク驚 注解上得^テ之而驚^ク失^レ之而驚^ク也 義無^レ隱

○何謂^ラ貴^ニ大^ニ患^ニ若^ク身 注復還自問、何故畏^ル大^ニ患^ニ至^ル身^ヲ 義無^レ隱

○吾所^ニ以^テ有^ル大^ニ患^ニ者、為^リ吾有^ル身

注吾所^ニ以^テ有^ル大^ニ患^ニ者、坐^シ吾有^ル身、憂^ル其勤^ノ勞^ヲ、念^ル其飢^ノ寒^ヲ、觸^レ情從^ル欲^ニ、則遇^ル禍^ノ患^ニ也

有^レ身^者、非^ニ暫^ク有^ニ此身^一也、但^レ貪^ノ世^{之人}、能^私其^身也、廣^韻曰、坐^ハ被^レ罪^也

安^レ樂^時也、勤^レ勞^又時^也、富^貴時^也、飢^寒又^時也、何^憂其^勤勞^{、念}其^飢寒^{、而}觸^ニ妄^情、從^ニ貪^欲、可^レ遇^ニ禍^患乎、中^庸曰、君^子素^其位^{而行}、不^レ願^ニ乎^其外^{、素}富^貴行^乎富^貴、素^貧賤^行乎^貧賤^{、素}夷^狄行^乎夷^狄、素^患難^行乎^患難^{、君}子^無入^而不^自得^焉

○及^テ吾^無身^吾有^ニ何^患乎

注使^下吾^無身^體道^自然^{、輕}拳^昇雲^出入^無間^{、與}道^通神^{、當}有^ニ何^患也

義^曰、無^レ身^者、非^ニ頓^無此身^一也、但^レ修^道之士^{、能}忘^其身^尔、莊^子曰、適^來者^夫子^時也、時^自生^耳、適^去者^夫子^順也、理^當死^耳、安^レ時^處順^{、憂}樂^不入^{、此}達^人之^忘身^也、體^道自^然、體^者、法^之義^也、輕^拳昇^雲出^入無^間者^{、道}與^我通^神、而^合體^{、則}於^理無^不透^徹之^謂、入^レ水^亦不^溺、入^レ火^亦不^焦

○故^貴以^レ身^為天^下者^{、則}可^ニ以^レ寄^ニ於^天下^一矣

注言^人君^自貴^其身^而賤^人、欲^レ為^天下^主、則^可寄^立、不^可以^久

以^天下^不為^天下^之天^下、為^一人^之天^下之^謂

寄^立者^{、不}安^居之^謂、會^去實^{、寄}附^也、蘓^氏瞻^詩曰、吾^生如^寄耳

○愛^以身^為天^下者^{、乃}可^ニ以^レ託^ニ於^天下^一矣

注言人君能愛其身非為己也、乃欲為萬民之父母、以此德為天下主者、乃可下以託其身於萬民之上、長無咎也

(以下余白)

贊玄第十四 廣韻曰、讚、稱人之美、

贊玄者、贊美玄妙之理也

○視之不見名曰夷 注無色曰夷、言一無彩色、不可得視而見之也

○聽之不聞名曰希 注無声曰希、言一無音聲、不可得聽而聞之也

羽、声也、絲、竹、金、石、匏、土、草、木、音也、詩序声成文謂之音、

會平侵、宮、商、角、徵、

出曰声

○搏之不得名曰微 注無形曰微、言一無形體、不可搏持而得之也

疏曰、夫視之者、以色求道、聽之者、以声求道、搏之者、以形求道、々非色声形法、故求竟不得、以不得故欲謂之無、乃於無色之中、能應衆色、無声之中、能和衆声、無形之中、能狀衆形、是有無色之色無声之声無形之形、故謂之希微夷者、所謂明道而非道也、夷者、平易也、

希者声之微妙也、搏者、執持也

義曰、以神視之、見無色之色、以氣聽之、聞無声之声、以惠照之、識無形之形、而衆色之具

義曰、以神視之、見無色之色、以氣聽之、聞無声之声、以惠照之、識無形之形、而衆色之具

義曰、以神視之、見無色之色、以氣聽之、聞無声之声、以惠照之、識無形之形、而衆色之具

衆聲之和、衆形之立、非道不能生、非道不能成、道也者獨能應衆色、和衆聲、狀衆形、故強名之曰希夷微尔

○此三者不可致詰、注三者謂夷希微也、不可致詰者、夫無色、無聲、無形、口不能言、書不能傳、當受之以靜求之、以神、不可強詰問而得之

先求之以神、而後受之以靜也、神者言無心無念也、靜言無為無妄也
疏曰、詰、責也

○故混而為一、注混、合也、故合於三、名之為一也

注所謂一者非道、々之所發出、萬物之根元也、物之為物、不過色声形之三、道之於色、強名其氣曰夷、道之於声、強名其氣曰希、道之於形、強名其氣曰微、故混合而言之、則一而已、此三者或為三才、或為三光、三才者、天地人、清浮之氣為天、濁滓之氣為地、中和之氣為人、是三才也、三光者、日、月、星辰、太陽之光為日、太陰之光為月、日月之餘光為星辰、是三光也

○其上不皦、注言一在天一上、不皦々光一明也

○其下不昧、注言一在天一下、不昧々有レ所闇冥也

疏曰、皦、明也、昧、暗也、夫形質之物、皆有定方、在上者則明、在下者則昧、惟妙本恍惚、不可定名、則在上亦不明、在下亦不暗、而能上、能下、能明、能昧、非天下之至蹟、其孰能與於此乎

義曰、惟夫大道處於上不皎然而明、道非陽也、處於下不昧然而暗、道非陰也、天得道而能

清、是能_レ上_レ也、地得_レ道而能_レ寧、是能_レ下_レ也、陽得_レ道而能_レ動、是能_レ明也、陰得_レ道而能_レ靜、是能_レ昧也
 ○繩_一々、不可_レ名、注繩_一々者動_レ行無_レ窮極_一也、不可_レ名者、一非_レ色也、不可_レ下_レ以_レ青、黃、赤、白、黑_一別、
 一非_レ声也、不可_レ下_レ以_レ宮、商、角、徵、羽、聽_一、一非_レ形也、不可_レ下_レ以_レ長、短、大、小、度_一也

○復_レ皈_レ於無_レ物_一 注物、質也、復當_レ皈_レ之於無_レ實_一也

疏曰、繩_一々者、運動不_レ絕之意、妙_一本生_レ化、運動無_レ窮、生物之功、強名不_レ得、物_一々而不_レ物、生_一
 生而不_レ生、尋_レ責不_レ得、妙_一本湛_レ然、未_レ曾有_レ物、故云復_レ皈_レ於無_レ物_一

○是謂_レ無_レ狀之狀 注言_一無_レ形狀_一、而能為_レ三_レ方_レ物_一作_レ三_レ形_レ狀_一也 柳為_レ綠、花為_レ紅、松葉細、荷葉圓者、所_レ謂_レ形_一狀也

○無_レ物之象 注言_一無_レ物質_一、而能為_レ三_レ方_レ物_一、設_レ三_レ形_レ象_一也 為_レ柳、為_レ花、為_レ松、為_レ荷者、物_一質也

○是謂_レ忽_レ恍_一 復_レ皈_レ於無_レ物_一者、是謂_レ無_レ狀之狀無_レ物之象_一也、呼_レ無_レ狀之狀無_レ物之象_一、又是謂_レ忽_レ恍_一也
 注言_一忽_レ々恍_レ々、若_レ存_レ若_レ亡、不_レ可_レ見也

義曰、道以_レ生_レ育_一動_レ植成_レ形、故能於_レ無_レ狀之中_一、成_レ其_レ形_レ狀_一、無_レ物之中作_レ其_レ物_一象、謂_レ其_レ無_レ則也狀_一
 象資_レ生、謂_レ其_レ有_レ也則、杏_一冥難_レ覩、非_レ無_レ非_レ有、為_レ惚_レ恍_一焉

○隨_レ之_レ不_レ見_レ其_レ後_一 注言_一無_レ影_レ迹、不_レ可_レ得_レ而隨_レ也

○迎_レ之_レ不_レ見_レ其_レ首_一 注_一無_レ端_レ末、不_レ可_レ預_レ待_レ也、除_レ情去_レ欲、一自_レ皈_レ己_一也
 義曰、至_レ道獨_レ立、無_レ始無_レ終、既非_レ前_レ後可_レ窮、莫_レ得_レ隨_レ迎_レ之_レ所_一、故曰長_レ於上_レ古、而不_レ為_レ老、

生於末代而不為少、先万物而不為始、後億劫而不為終、由此而言、豈隨迎而可得也、凡物有往則隨之、有來則迎之、道無來往、非隨迎可求矣

○執古之道、以御今之有注聖人執守古道、主一以御物、知今之當有一也

一 無古、今、々之一、即古之一也

義曰、御者、制也、古之化者無為無妄、今之化者有體有名、無為故易理、有體故難化

○能知古始、是謂道紀注人能知上古本始有一、是謂道之綱紀也

會上紙、大曰綱、小曰紀、總之為綱、周之為紀

(以下余白)

顯德第十五 顯明道德之謂

○古之善為士者注謂得道之君也

會平文說文、君、尊也、徐曰、君者、尹也、正也、長民之稱、白虎通、君者、群也、群下之皈心也

會上紙說文、士、吏也、數始於一、終於十、孔子曰推一食十為士、善為士之士、非士大夫之士、

加善字而作有道之稱、有道之者、君人也、故言得道之君也

○微妙玄通注玄、天也、言其志節微妙、精與天通也 志節、言其志有節而合道也

○深不可識注道深遠不可識、知內視若盲、反聽若聾、莫知所長也 內視若盲者、見無色之

色、不見五之色之謂、反聽若聾者、聽無聲之聲、不聽五聲之聲之謂

義曰、士者、指古昔有道之人也、有道之人、行道之行、凡有所立、在野、在朝、皆謂之士、刻

意尚行、離世異俗、此山谷之士也、語仁義忠信恭儉推讓、此平世之士也、語大功、立大名、

正君臣、明上下、此朝廷之士也、就藪澤、居閑曠、釣魚避世、此江海之士也、吹呶呼吸、吐

故納新、熊經鳥伸、此導引之士也、若夫不刻意而高、無仁義而循、無功名而理、無江海而

閑、不導引而壽者、為道之士也、前之五士、其用可測、其可涯、唯為道之士、道德微妙、應

變玄通、其用沖深、難以智察、無不無也、有不有也、澹然無極、而衆美從之、是不可識也

○夫唯不可識、故強為之容、注謂下句也、以下五字之解也、以上五字、加夫唯之字、再言而

曉人也、猶養身章言功成不居夫唯不居、強為之容、雖非言之可及、強而為之形容也

○與兮若冬涉川、注拳、支、輒、加三重慎、與、々、兮、若、冬、涉、川、心難之也、與、豫、通、疑、難、之、義、也

拳、支者、言即今所行也、義曰、亂流而渡、深曰厲、淺曰揭、由膝以上曰涉

○猶兮若畏四隣、注其進退猶々、拘制、若人犯法畏四隣、知也、猶亦疑難之義、拘制者、於

支不容易之謂

會去御、猶豫、獸名、性多疑、居山中、忽聞有聲、則豫上樹、下止不一、故不決者言猶豫

義曰、猶豫皆疑難之象也、且常人不知修道、恣欲任情、無懼無疑、動貽陷溺、為道之士、知愛欲而不為、若冬將涉川有凝互之憂、畏居將為支懼中隣里之間、知上既暗室不欺、每屬垣

為戒也、此為道之行也、夫人為惡於幽暗者、鬼神知之、為過於明顯者、隣里知之、得無戒慎矣

○儼兮其若客 注若客因主人儼然無所造作也 會

○渙兮若冰之將釋 注渙者解散、釋者消亡、除情去欲、日以空虛也 會去翰說文、渙、流散也

義曰、儼、肅敬也、渙、散也、釋、解也、出門如見大賓、言主之敬客也、儼兮其若客、言客之敬主也、賓主尽敬、各慎禮容、世之常也、至人靜默戒慎檢身、常如對主之恭、固無肆情之欲、為善不滯、散釋變通、若泮春冰、豈復膠固矣

○敦兮其若樸 注敦者質厚、樸者形未分、內守精神、外無彩文也

疏曰、敦、々厚也、樸、質樸也、言雖不滯於物、而絕中浮競、其德厚、若質樸、無所分別

○曠兮其若谷 注曠者、寬大、谷者、空虛、不有德名功、無所不容也

疏曰、曠、寬也、言善士懷道抱德、字量曠然、寬大於物、悉能含受、如彼空谷無不包容

○渾兮其若濁 注渾者、守本真、濁者、不照然也、與衆合同不自尊也

會上阮、混沌、陰陽未分、或作渾

疏曰、善士心照清濁、而能容物、和光同塵、不自殊異、渾然如濁、物莫能知

○孰能濁以靜之徐清 注孰、誰也、誰能知水之濁止、而靜之、徐々自清也 會平魚徐說文徐安

行也、増韻緩也。如濁者、道德之成者也、無心于濁、能濁者、修行底而未到無心于濁也、河公拳水而以譬之、水之濁也、水本不濁、物来而濁之、故静之以澄則清也、脩行成就底人、如濁又不濁也。

疏曰、因上文云若濁、便拳水之澄清、以况善士之心、無撓則自然静止、故云孰能於代間愛欲混濁之中、而以清静道性静止之、令愛欲不起、亦如水之濁而澄、静之令徐徐自清乎、孰誰也。

○孰能安以久之徐生 注誰能安静以久徐徐以長生也 雖暫得安静無以久、故不得徐徐以

長生也 保此道者不欲盈 注保此徐生之道者、不欲奢泰盈溢也

廣聖義注曰、欲保此徐清徐生之道、當須無所執滯、若執清求生是謂盈滿將大此道故云不欲盈尔 夫唯不盈、故能弊不新成 注夫唯不盈滿之人、能守弊不為新成、弊者、匿光榮也、新成者、謂下貴功名者上也

守弊者、入無為也

義曰、既了舊法又證新法、謂自小乘入中乘道也、中乘之道、或權或實、滯於脩、又捨此權實有修之門、求入大乘無為之趣、執於修著、不悟無為、是日新還為盈滿、故損之、又損階

（以下余白）

○皈根第十六 万物皆皈其根本之謂

○至虚極也 注道人捐情去欲五内清静至於虚極也 五内者、五藏、虚極者、妙本之道也

義曰、稟道之性、本来清静、及生之後、漸染諸塵、障翳内心、迷失真道、六根者、一曰眼根、能見諸境、二曰耳根、能聞諸声、三曰意根、能生攀緣、四曰鼻根、能辯香臭、五曰舌根、能知諸味、六曰身根、能生煩惱、以此六種生諸罪、因展轉相生、障蔽真性、喻如草木結花吐實相生不窮、尋其所起、不離六種、如根生植物、名曰六根、五欲者、眼欲諸色、耳欲諸声、鼻欲諸香、口欲諸味、心生衆欲、障蔽性情、煩惱縈纏、皆由此起、内心悦慕、謂之愛、外境著心、謂之染、因境生心、謂之欲、制止不已、謂之奔、意想交侵、謂之競

■正性流散、隨念生邪、以生邪故乖失正本

○守静篤也 注守清静行篤厚也 守静厚者、至虚極也、静者、皈根曰静之静也

義曰、水流湿、火就燥者、易乾卦九五爻之詞也、言水火二者也、無情之物而以形氣相感、水流其地、先就於湿、火焚其物、先就於乾、無識無情、猶感應如此、况虚心静慮而不能致道乎、固可不求而道自至也

○万物並ヒ作ナル 注ハナリ作生也万物並生也

疏曰、此明下守静篤致虚極之意、夫万物万形動作不同、其皈復常在於本

○吾以觀ミル其復ノ 注言吾以觀見万物、無不皆皈復其本、人當念重シ本也

義曰、物雖動作万殊、必復皈其本、人能虚心念道、々必集其虚、故戒令虚心念道也

○夫物芸タリ々ハ 注芸々華葉盛也 會平元、芸々、物多兒

○各復ス皈ス其根ニ 注言万物無不枯落、各復反其根、而更生也 會入屋說文、復、往來也、廣韻、返也

易復卦曰、復其見天地之心乎、弼注、復者、反本之謂也、天地以本為心者也

義曰、芸々、茂盛兒也、百草衆木芸々茂盛、及其枯落則各皈其根、而更生茂盛動作也、キスルハ 根、復息也、物理皆然矣 疏曰、根者、本所受氣而生也

○皈キスルニ根ニ曰ト静ト 注静謂根也、根安静柔弱謙卑處下、故不復死也 根者體、静者用也

○静イラ曰ニ復ト命ト 注言安静者是為復還性命使キ不死也 中庸曰、天命之謂性、集註、命、猶令

也、性、即理也、天以陰陽五行、化生万物、氣以成形而理亦賦焉、猶命令也、於是人物之生、因各得其所賦之理、以為健順五常之德、所謂性也

○復イラ命ト曰ト常ト 注復命使不死、此乃道之所常行也

復命曰常 注復命使不死、此乃道之所常行也

復命曰常 注復命使不死、此乃道之所常行也

復命曰常 注復命使不死、此乃道之所常行也

復命曰常 注復命使不死、此乃道之所常行也

○知_ラ常_ヲ曰_ト明_ト 注能知_シ道_ノ之所_ヲ常_ニ行_ル、則_ス為_レ明_ト 道_ノ之所_ヲ常_ニ行_ル、言_ニ復_シ命_ヲ使_レ不_レ死_セ也、明_ハ者、言_レ知_ラ復_シ命_ヲ使_レ

不_レ死_セ之_レ理_ニ也

疏曰、守_テ静_ヲ復_シ命_ニ、可_レ謂_フ有_レ常_、知_レ守_テ常_者、更_ニ益_シ明_ヲ了

○不_レ知_ラ常_ヲ妄_リ作_ス凶_ト 注不_レ知_ラ道_ノ之所_ヲ常_ニ行_ル、妄_ニ作_ス巧_詐、則_シ失_シ神_明故_ニ凶_ト也

義曰、常_者、垂_テ久_ニ不_レ移_レ之_レ義_也、天_地日_月得_テ常_ヲ而_シ清_寧久_ク照_ス、人_君理_レ國_ヲ、得_テ常_ヲ而_シ貞_正無_レ為_、能_テ守_テ常_則終_始不_レ易_、故_ニ常_者道_徳之_レ紀_也

○知_ラ常_ヲ曰_ト容_ト 注能知_シ道_ノ之所_ヲ常_ニ行_ル、則_シ去_テ情_欲無_レ不_レ包_テ容_也 廣_聖義_注曰、知_レ守_テ真_常、則_シ如_ク彼_空谷_、

無_レ上_レ不_レ含_テ容_也

疏曰知_ラ常_ヲ曰_ト明_ト、々_々則_シ鑒_ル物_々、々_々來_テ必_ズ應_ズ、無_レ不_レ含_テ容_、故_ニ知_ラ常_ヲ曰_ト容_ト

○容_ト乃_シ公_ト 注無_レ不_レ包_テ容_、則_シ公_正無_レ私_、衆_邪莫_レ當_ル也

會_上賄_乃繼_亓之_レ辭_也

廣_聖義_注曰、含_テ容_應物_々、々_々無_レ心_既無_レ私_邪、故_ニ公_正

○公_ト乃_シ王_ト 注公_正無_レ私_、可_レ為_レ天_下王_、治_テ身_正則_シ形_一、神_明千_一万_、共_湊己_躬也 會_平陽_說文_、王_、

天_下所_ニ皈_往也、董_仲舒_曰、古_之造_レ文_者、三_畫而_シ連_レ其_中、謂_フ之_レ王_、三_者、天_地人_也、而_シ參_通之_レ者、

王_也、孔_子曰_、一_貫三_為王_ト

義_曰、知_レ常_順道_、故_ニ能_テ公_正而_シ為_レ王_也、有_レ道_之人_、不_レ言_而自_化、不_レ召_而自_來、故_ニ天_下皈_往也、王_、

者、以_二物_レ皈_一往_ス為_レ義_ト

○王_ニ乃_一天_一 注能_ハ王_{ナル}、則_シ德_ハ合_シ神_ニ明_ニ、与_レ天_一通_ス也

廣_レ聖_ニ義_一注_ニ曰_一、羣_ニ物_一樂_ニ推_ニ、如_シ天_ニ之_レ覆_カ、則_シ与_レ天_一合_ス德_ヲ矣

○天_ニ乃_一道_一 注德_ハ与_レ天_一通_ス、則_シ與_レ道_一合_ス同_也

疏_ニ曰_一、惟_ニ天_一為_レ大_ニ、惟_ニ王_一則_レ之_ニ、其_レ德_ハ同_レ天_ニ、而_レ無_レ不_レ覆_{ト云}、故_ニ曰_一王_ニ乃_一天_{ナリ}、王_レ德_ハ如_レ天_ニ、則_シ無_レ為_レ而_レ理_ニ、道_一化

乃_一行_ル、故_ニ云_一天_ニ乃_一道_{ナリ}

○道_ニ乃_一久_シ 注与_レ道_一合_ス同_ス、乃_レ能_ハ長_ク久_ク也

廣_レ聖_ニ義_一注_ニ曰_一、道_一行_テ天_一下_ニ乃_一可_ク以_テ久_ク享_フ福_ニ祚_一矣

○歿_ル身_ヲ不_レ殆_{カラ} 注能_ハ公_ニ、能_ハ王_ニ、通_レ天_ニ、合_レ道_ニ、四_ノ者_ハ純_ニ備_リ、道_一德_ハ弘_ク遠_ニ、無_レ殃_セ無_レ咎_セ、乃_レ與_ニ天_一地_一俱_ニ歿_ス

不_レ危_ク殆_{ナラ}也

疏_ニ曰_一、言_ハ守_レ靜_ニ、致_シ虛_ニ、皈_レ根_ニ、復_レ命_ニ、如_レ此_ハ可_ク以_テ為_レ王_ニ、々_々德_ハ合_レ天_ニ、乃_レ能_ハ行_レ道_ヲ、々_々行_テ乃_レ久_ク享_フ福_ニ祚_一、

天_一下_ニ之_レ人_一、就_テ之_ニ如_レ日_ノ、戴_テ之_ニ如_レ天_ノ、澤_テ之_ニ如_レ雨_ノ、望_テ之_ニ如_レ春_ノ、故_ニ終_ニ歿_ト其_レ身_ヲ、復_レ何_レ危_ク殆_{ナラ}之_レ憂_カ、故_ニ曰_一歿_マ

身_ヲ不_レ殆_ト

(以下余白)

(裏面余白)

淳風第十七 淳厚之風俗也

○太上下知有之 注太上謂上古無名號之君上也、下知有之者、下知上有君、而不臣之、

質朴淳也

會平庚說文、名、自命也、去號號名

平文說文、君、尊也、長民之通稱、白虎通云、君者群也、群下之所皈心也

平眞說文、臣、率也、吏君也、通論曰、心常牽於君也、孝經說、臣者、堅也、勵志自堅固也

義曰、太者、大也、上者、高也、至高至大、以表其名、上古之君、無有謚號、行淳厚之化、以

化於人、任物無為、不而言而信、不施典法、以蕩物心、故臣下知其上有君、而不聞其教令、

其臥居々々、其起于々々、其行填々々、其視顛々々、山無蹊隧、澤無舟梁、耕而食、織而衣、四時自行、

其上方物、自行其下、至德高遠、不可名號、故云太上、或云上太古太古之君者、昔有容成氏、

大庭氏、栢皇氏、中央氏、栗陸氏、麗連氏、軒轅氏、赫胥氏、無懷氏、昊英氏、尊盧

氏、葛天氏、陰襄氏、祝融氏、列山氏、宓犧氏、神農氏、皆結繩無為之代、黃帝乃垂衣

裳、造書契、有作有法、漸以化民矣、三皇者、以道理人、無制令、無刑罰、謂之皇、有制

令、無刑罰、謂之帝、所以三古異、宜步驟、斯變矣、太上之化、不其遠歟

○其次親之譽之 注其德可見、恩惠可稱、故親愛而譽之也

疏曰、太上之君歿、黃帝堯舜氏作、施行教行善、仁及百姓、故親之、柔服致平、功高天下、故譽之、親譽生前人之迹、矯徇為後代之患

73ウ

義曰、譽、褒美也、矯、妄也、以身從物曰徇也、歿、死也、謂前太古上古之君相次死歿也、作、起也、神農德衰、蚩尤暴橫、諸侯侵伐、黃帝修德振兵、殺蚩尤於涿鹿之野、天下尊之立為天子、曰黃帝焉、以代神農之位、師廣成子於崆峒山、問理國之道、取天地之精、以養兆人、造書契、服、牛、馬、舟、車、杵、臼、宮、室、弧、矢、調律呂、鑄鼎、制琴、禮樂既作、其臣大撓造曆、容成造算、倉頡造文字、風后造五兵、而萬慮興焉、名迹顯焉、帝堯睦九族、親百姓、姓、師務成子、定歲時、正律度、以化天下、帝舜師尹壽子、以孝德彰聞、代堯為天子、黃帝堯舜制作法、度天下化之、民乃親其德、而譽其功、乃真親真譽也、非黃帝堯舜使民親譽、而民自親譽之一

74オ

○其次畏之 注設刑法以治之也 刑法者、五刑之法也、設五刑之法、而正罪之輕重也

孝經正義曰、孔安國云、割其額而涅之曰墨刑、額也、謂刻額為瘡、以墨塞瘡、孔令變色也、墨一名黥、又云截鼻曰劓、劓足曰剕、又云宮、淫刑也、男子割勢、婦人幽閉、次死之刑、

又云大辟、死刑也、案此五刑之名、見於經傳、唐虞以來皆有之矣、未知上古起自何時、

義曰、堯舜既歿、三王繼之、三王者、夏殷周也、禹父鯀為堯治水、九年績用不成、舜殛鯀於羽山、拳禹代父使之治水、通九江、濬百川、百谷既同、四海無壅、手足胼胝、鑿鼉門、闢

伊闕、濬九河、所經者、七百餘國、乘四載、而奠名山、大川、靡不周遍、其為人、其仁可親、其言可信、聲為律、身為度、舜遂禪位、禹既受位、自以德不及堯舜、去帝稱王、即三王之也、其後夏桀無道、殷湯以諸侯起兵伐桀而代其位焉、佐夏征葛伯有功、開三面之網、飯其仁者、三十六國、夏桀暴虐、天下叛之、湯征桀於鳴條之野、放之於南巢、三王之也、其後殷紂無道、斷朝涉之脛、剖比干之心、置炮烙之刑、剗剔孕婦、天下叛之、周西伯以丁卯歲霸於邠岐、武王以己卯歲嗣位、至乙酉年伐紂於牧野、克之、遂興周業而代殷而位焉、此三王之也

○其次侮之、注禁多令煩、不可飯誠、故欺侮之、禁者、禁制也、令、號令也

義曰、五霸者、在三王之內諸侯之間、以兵服四方、為盟會之主、內扶天子、外威諸侯、以禮樂征伐、權於當代、不及於王、故謂之霸、夏之霸者有昆吾、黃帝之後也、殷之霸者、有大彭豷、韋、帝堯之後也、周之霸者、有三齊、桓、僖、公之子、名小白、晉文公者、獻公之子、名重耳、母曰狐姬、又曰、冲虛真經孔子對商太宰曰、三皇善因時順物、而理、五帝、善任仁義、彰善而成功、三王善任智勇、智以決之、勇以行之、五霸、善任機權、因勢以製宜、託機以成務、猶檢之以禮約之以信、禮信或虧、即霸道隳矣

三、畧曰、夫三皇無言而化、流四海、故天下無所不皈功、帝者、體天則地、有言有令、而天下太平、君臣讓功、四海化行、百姓不知所以然、故使臣不待禮賞、有功美而無害、王者制

人以道降心服志、設矩備衰、四海會同、王職不廢、雖有甲兵之備、而無鬪戰之患、君無疑於臣、々無疑於主、國定主安、臣以義退、亦能美而無害、霸者制士以權、結士以信、使士以賞、信衰則士疏、賞虧則士不用命

○信不足焉 注君信不足於下也

○有不信焉 注下則應之以不信、而欺其君也

疏曰、此覆釋畏之侮之、百姓畏君之刑法、侮君之教令者、皆為君信不足於下、故令下有此不信之人尔

義曰、言著而不欺曰信、賞及無功、罰及無罪則為不信、教令失信、民得欺之矣、形曲則影斜、源混則流濁、上行下效、其應若斯、春秋宣公十一年、楚子伐鄭、及櫟、鄭大夫子良曰、楚晉不務德而兵爭、與其來者可也、晉楚無信、我焉得有信、乃從楚、夏及楚子盟于辰陵、陳鄭服也、此乃信不足有不信焉

○猶兮其貴言 注說太上之君 猶々貴重於言、恐離道失自然也

疏曰、此覆釋親之譽之也、百姓所以親愛君之善仁、稱譽君之功業者、由君有德教之言、故貴重君之言、而稱譽之尔

注言說太上之君 舉叟者、其次親之譽之之君也、太上之君不舉叟、故舉叟者、非太上之君、其次也、言太上者、德齊太上、而其叟見而已、故言舉叟也

○成^{ナシ}功^{ヲトク}遂^レ亶^ヲ 注謂^ニ天^一下^一太^一平^一也

○百^一姓^一皆^一謂^{オモヘリ}我^一自^一然^{ナリト} 注百^一姓^一不^レ知^ニ君^一上^一之^一德^一厚^ヲ 反^テ以^テ為^ス自^一當^一然^ニ也

疏曰、此覆^ニ釋^ス太^一上^一下^一知^一也、夫淳^一樸^一不^レ殘^レ、孰^カ為^ニ犧^一樽^一、道^一德^一公^一行^一、親^一譽^一焉、設^ニ故^一太^一上^一之^一代^一、下^一忘^ニ帝^一力^一、適^ニ令^一功^一成^一亶^一遂^一、百^一姓^一以^テ為^ス自^一然^ニ合^一尔^一、不^レ知^ニ所^一以^一親^一譽^一報^一施^一也

義曰、莊^一子^一馬^一蹄^一篇^一曰、淳^一樸^一不^レ殘^レ、孰^カ為^ニ犧^一樽^一、白^一玉^一不^レ毀^レ、孰^カ為^ニ珪^一璋^一、道^一德^一不^レ廢^レ、安^一取^ニ仁^一義^一、性^一情^一不^レ離^レ、安^一用^ニ禮^一樂^一、五^一色^一不^レ亂^レ、孰^カ為^ニ文^一采^一、五^一聲^一不^レ亂^レ、孰^カ為^ニ六^一律^一、夫^一殘^レ樸^一以^テ為^レ器^一、工^一之^一罪^一也、毀^ニ道^一德^一以^テ為^レ仁^一義^一、聖^一人^一過^レ也、夫^一太^一古^一上^一古^一之^一時^一、大^一道^一之^一行^一、上^一德^一不^レ德^レ、人^一知^ニ其^一上^一有^ニ君^一長^一焉、中^一古^一之^一時^一、大^一道^一既^一隱^一、仁^一德^一可^レ見^レ、恩^一惠^一及^レ人^一、故^一有^ニ親^一譽^一之^一美^一焉、下^一古^一之^一衰^一、道^一德^一皆^一隱^一、教^一令^一鬱^一興^一、信^一義^一漓^一薄^一、其^一上^一失^レ信^一、下^一則^一以^ニ不^一信^一應^レ之^一、故^一見^ニ其^一峻^一令^一則^一畏^レ之^一、聞^ニ其^一失^一信^一則^一侮^レ之^一、老^一君^一所^レ戒^一、欲^レ使^ニ後^一代^一帝^一王^一、弃^ニ禮^一智^一之^一末^一跡^一、慕^ニ道^一德^一之^一古^一風^一、遺^レ功^一忘^レ名^一、復^一販^一大^一樸^一矣、親^一譽^一者、有^ニ仁^一愛^一之^一跡^一、則^一親^レ之^一、有^ニ美^一善^一之^一跡^一、則^一譽^レ之^一、報^一施^一者、上^一加^ニ其^一恩^一曰^レ報^一、下^一立^ニ功^一勞^一曰^レ施

(裏面余白)

(以上第一冊)

校記

元表紙 当初は後補表紙の見返しに糊付けされていた。後に所蔵者の御配慮で元表紙が剝離され、そのゼロックスコピーを頂いて確認

- | | |
|---|--|
| <p>1オ 「言」 本行脱、右旁に加筆</p> <p>1ウ 「所」 本行脱、右旁に加筆</p> <p>2オ 「所」 本行脱、右旁に加筆</p> <p>2ウ 「五」 もと「六」、墨で塗抹し、右旁に訂正加筆</p> <p>3オ 「言」 本行脱、右旁に加筆</p> <p>3ウ 「所」 本行脱、右旁に加筆</p> <p>4オ 「所」 本行脱、右旁に加筆</p> <p>4ウ 「言」 本行脱、右旁に加筆</p> <p>5オ 「言」 本行脱、右旁に加筆</p> <p>5ウ 「所」 本行脱、右旁に加筆</p> <p>6オ 「言」 本行脱、右旁に加筆</p> <p>6ウ 「所」 本行脱、右旁に加筆</p> <p>7オ 「言」 本行脱、右旁に加筆</p> <p>7ウ 「所」 本行脱、右旁に加筆</p> <p>8オ 「言」 本行脱、右旁に加筆</p> <p>8ウ 「所」 本行脱、右旁に加筆</p> <p>9オ 「言」 本行脱、右旁に加筆</p> <p>9ウ 「所」 本行脱、右旁に加筆</p> <p>10オ 「言」 本行脱、右旁に加筆</p> <p>10ウ 「所」 本行脱、右旁に加筆</p> <p>11オ 「言」 本行脱、右旁に加筆</p> <p>11ウ 「所」 本行脱、右旁に加筆</p> <p>12オ 「言」 本行脱、右旁に加筆</p> <p>12ウ 「所」 本行脱、右旁に加筆</p> | <p>5オ 「外」 本行一字塗抹、右旁に加筆</p> <p>6オ 「道」 本行脱、右旁に加筆補入</p> <p>6ウ 道書全集原本、鼻神、口神の間に「耳神」二字有り、本抄誤脱</p> <p>7ウ 道書全集原本、元真両字の間に「宮」字有り、本抄誤脱</p> <p>8オ 「有」 本行一字塗抹、右旁に加筆</p> <p>8ウ 「石間」 送り仮名「カ」、「ニ」の譌カ</p> <p>9オ 「皆」 本行脱、右旁に加筆補入</p> <p>9ウ 「故」 本行脱、右旁に加筆補入</p> <p>10オ 「性」 本行一字塗抹、右旁に加筆</p> <p>10ウ 「方圓」「長短」「剛柔」「強弱」各語、両字間に朱読点有り</p> <p>11オ 「万物」 もと「道」、一字塗抹して、右下旁に加筆</p> <p>11ウ 「入」 本行一字塗抹、右旁に加筆</p> <p>12オ 「人」 本行脱、右旁に加筆</p> <p>12ウ 「為」 本行脱、右旁に加筆補入</p> <p>「有」 本行一字塗抹、右旁に加筆</p> <p>「無」 本行一字塗抹、右旁に加筆</p> |
|---|--|

(體道第一)

4オ 道書全集原本、注文「里細」の間に「沙」字有り、本抄

13 オ 「正」 本行脱、右旁に加筆補入

「氣稟之不_レ同」 本行脱、眉上に加筆補入

13 ウ 「陰晦之」 本行約五字分塗抹し右旁に加筆

「値」 本行脱、左旁に加筆補入

14 ウ 「所」 本行脱、右旁に加筆補入

15 オ 「性」 本行一字塗抹し右上旁に加筆

「雖」 送り仮名「トモ」の譌カ

(養身第二)

16 オ 「者」 本行脱、右旁に加筆補入

「者」 本行脱、右旁に加筆補入

17 オ 「空」 本行一字塗抹、右旁に加筆補入

17 ウ 「能」 本行脱、右旁に加筆

「鳧之短」 本行脱、左旁に加筆

「卑」 本行一字塗抹、右旁に加筆

18 オ 「上」 本行脱、右旁に加筆補入

「於」 本行一字塗抹、左旁に加筆補入

19 ウ 「道」 本行脱、右旁に加筆補入

「望」 本行脱、右旁に加筆補入

20 ウ 「德」 本行一字塗抹、右旁に加筆

(安民第三)

22 オ 「歆」 本行脱、右旁に加筆補入

23 オ 「其氣」 返り点「_レ」は衍カ

「道集」 返り点「_三」は衍カ

23 ウ 「於」 本行脱、右旁に加筆補入

(無源第四)

26 オ 「澄」 本行脱、右房に加筆補入

(虚用第五)

28 オ 「以」 本行もと施に作る、塗抹し右房に加筆訂正

28 ウ 「其封」 返り点「_レ」は衍カ

「無使_ト其首」 返り点「_上」は「_下」の譌カ

29 オ 「故万_一物自_一生」 此の五字本行脱、右旁に加筆補入

29 ウ 「虚」 もと送り仮名「ヲ」、加筆訂正

「曰」 本行脱、右旁に加筆

「裏」 「囊」字の譌カ

(成象第六)

32 オ 「肝」 もと「肺」に作る、旁「市」に加墨して訂正

33 ウ 「其鬼其所_レ歸也」 此の六字本行脱、右房に加筆補入

「其」 右の補入文、此の字を脱す、右房に更に加筆補入

48オ 「疵」 本行一字塗抹、右旁に加筆

50オ 「滿」 本行脱、右旁に加筆補入

別紙 料紙異なる 縦二一・六、別筆の如し

「轂」 説文云、轂古椽反、漢語抄云車輻所湊也 順和名「和名

類聚抄舟車部車具の一条

三才圖會車制之圖は明版の臨写、輻、轂、輪の圖及び説

明文を転写し、末に「右三才圖會車之條下」とある

(無用第十一)

52オ 「車」 本行脱、右房に加筆補入

53オ 「有」 本行脱、右旁に加筆補入

「所盛受」 送り仮名「ロ」、もと「ヲ」、加筆訂正、

又、もと盛字の左下に返り点「ㇿ」有り、墨筆を以て抹消

さる

53ウ 「曰」 本行脱、右旁に加筆補入

54オ 「室」 本行脱、右旁に加筆補入

54ウ 「為」 本行脱、右旁に加筆補入

(揆欲第十二)

55ウ 「■」 もと「辛」字有り、墨筆を以て抹消

56オ 「有」 もと返り点「ㇿ」有り、墨筆を以て抹消

「無」 本行一字塗抹、右旁に加筆

「過」 本行脱、右旁に加筆

「以得」中而無過不及為 返り点「ㇿ」「ㇿ」、もと

「上」「下」、墨筆を以て訂正

「■」 もと「者」、墨を以て塗抹

56ウ 「■」 もと「見」字有り、墨を以て抹消

「■■■■■■■■■■」 もと「無味之味無色之」の七字有

り、墨線を以て抹消さる

57オ 「二為賓客、交二二國之好也」 読点もと交字の下に有

り、今、私に訂正

「■」 もと「古」字、墨筆を以て塗抹

(厭耻第十三)

59オ 「吾」 本行脱、右旁に加筆補入

59ウ 「處」 もと送り仮名「ヲ」、墨筆を以て訂正

「■■■■■■■■■■」 もと「不敢驕、不

敢奢」之「不」字、勿字義也」の十三字有り、墨筆を以て抹消

60オ 「既驚其禍患」 「驚」字の下に読点有り、今、私に削

除

61ウ 「為」 本行脱、右旁に加筆補入

(贅玄第十四)

63 才 「日、月」 両字の間に連続符有り、今、私に削除

63 ウ 「不」 本行脱、右旁に加筆補入

「不」 本行脱、右旁に加筆補入

64 才 「植」 字有り、墨筆を以て抹消

「也」 本行脱、右旁に加筆

「杏」 底本譌、「杏」字に作るべし

64 ウ 「一」 本行脱、右旁に加筆補入

「一」 もと「以」字、衍、墨で塗抹

(顯徳第十五)

65 才 「識知」 両字の間に読点有り、今、私に削除

65 ウ 「導引」 もと「引導」に作る、移行符を以て訂正

「言」 もと「言」、墨筆を以て塗抹

66 才 「輒」 本行脱、右旁に加筆補入

「浅曰掲、由膝以上曰涉」 此の九字本行に無く、眉

上に加筆補入

66 ウ 「若」 もと「如」、右旁に訂正加筆

「若」 もと「如」、右旁に訂正加筆

67 才 「曰」 本行脱、右旁に加筆補入

「徐」 もと右旁に振り仮名有り、墨筆を以て抹消

「知」 もと「如」に作る、右旁に訂正加筆

「徐」 本行脱、右旁に加筆補入

67 ウ 「到」 本行脱、右旁に加筆補入

「澄」 本行一字塗抹、右旁に加筆

「混」 本行脱、右旁に加筆補入

「久」 送り仮名もと「ヲ」に作る、墨筆を以て訂正

68 才 「夫唯」 本行此の二字脱、右旁に加筆補入

(飯根第十六)

69 才 「   」 もと「意想交侵」四字衍、墨線以て抹消

69 ウ 「言」 もと「者」字衍、墨以て抹消

70 才 「言」 本行脱、右旁に加筆補入





70 ウ 「不」 もと「不」字衍、墨以て抹消


71 才 「義曰常者」以下の文、もと經文「復命曰常」の注文の

次に有り、符簽を以て此処に指示移行さる

「會上賄乃繼支之辭」此八字本行に無く、行間に加筆

(淳風第一七)

73 才 「   」 もと「教令也一曰」五字、墨線で抹消

「  」 もと「通論曰」の三字、墨線で抹消

- 73 ウ 「其」^レ 振り仮名「ソレ」、もと「ソノ」、墨以て訂正
- 75 オ 「禁者禁制也令號令也」^{ナリ} 此の九字加筆、「禁制」以下
七字は眉上に有り
- 76 オ 「及」^サ 本行脱、右旁に加筆補入
- 76 ウ 「言」 本行脱、右旁に加筆